

急性呼吸器感染症サーベイランス週報:

2026年第1週(2025年12月29日~2026年1月4日)

Acute Respiratory Infection Surveillance Weekly Report: Epidemiologic Situational Awareness

Week 1, 2026

本報は全国から報告された急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection、以下、ARIという)のサーベイランス報告を精査してまとめ、地方自治体等で感染症対策に従事する皆様や国民の皆様に、広く疫学情報を提供・還元することを目的としています。ARI、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、小児科および内科からなる急性呼吸器感染症定点から、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、小児科定点から報告されています。患者サーベイランスでは集計日に直近1週間のデータを集計し、それ以外は、以前のデータを再掲しています。病原体サーベイランスでは、集計日に全ての期間のデータを集計しています。週ごとの「傾向(トレンド)」と「水準(レベル)」を踏まえ、感染の流行の状況について、解釈を行っています。巻末に本報に関する注意事項を記載しています。なお報告数は暫定値であり、変更の可能性があることにご注意下さい。

今週の状況(概要):

2026年第1週(12月29日~1月4日)におけるARIの定点当たり報告数は29.12(報告数93,633例)であった。各感染症の定点当たり報告数では、インフルエンザは10.35、COVID-19は1.13、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は0.82、RSウイルス感染症は0.35、咽頭結膜熱は0.13、ヘルパンギーナは0.01であった。また、新規入院患者数は、インフルエンザは1,009例で前週と比較して392例減少した。COVID-19は541例で前週と比較して71例減少した。

年齢群別にみると、報告数が最も多かった年齢群は、インフルエンザ、COVID-19では10-59歳、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナでは1-4歳、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎では5-14歳であった。また各感染症の定点当たり報告数が多かった上位3都道府県は、インフルエンザでは宮崎県、鹿児島県、沖縄県であった。COVID-19では北海道、福島県、秋田県であった。RSウイルス感染症では岐阜県、群馬県、香川県であった。咽頭結膜熱では宮崎県、山形県、群馬県であった。ヘルパンギーナでは沖縄県、茨城県/福岡県、大分県であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎では茨城県、福岡県、北海道であった。2026年第1週に採取された検体の結果は、集計時点までに報告されなかった。

第1週は、新規症例報告数は減少し、全ての年齢群と殆どの地域で同様に減少したが、年末年始における医療体制の影響を考慮する必要がある。

内容

今週の状況(概要):	1
1. 患者サーベイランス	3
1.1. 全国の定点当たり報告数	3
1.2. 全国の年齢群別報告数	5
1.3. 都道府県別の定点当たり報告数	8
1.4. 全国のインフルエンザおよび COVID-19 の新規入院患者数	21
2. 病原体サーベイランスの状況	22
2.1. 全国の病原体別報告数	22
2.2. SARS-CoV-2 ゲノムサーベイランス	26
注意事項	27
地域の定義	27
参考サイト	28
参考 1: 検体採取週ごとの全自动遺伝子解析装置等による検査結果	29
参考 2: 各感染症の週ごとの都道府県別定点当たり報告数	30
参考 3A: 2025 年 11 月における病原体の報告数	46
参考 3B: 2025 年 11 月における病原体別の検査数、陽性数および陽性率	46

1. 患者サーベイランス

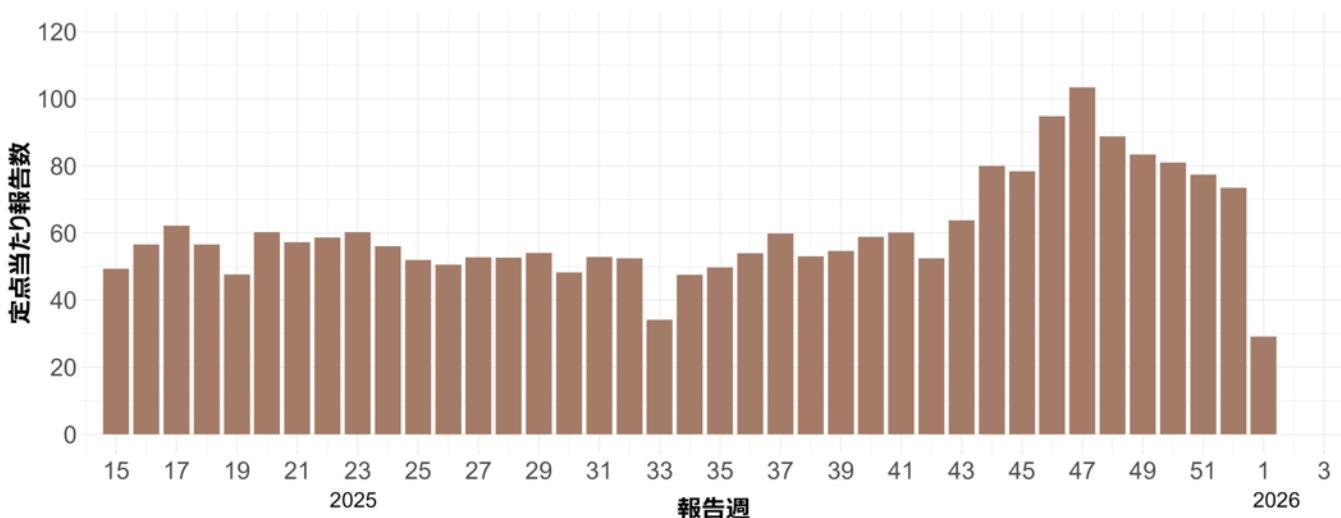
1.1. 全国の定点当たり報告数

2026年第1週におけるARIは、3,215力所の急性呼吸器感染症定点から報告され、定点当たり報告数は29.12(報告数93,633例)であった(図1)。

急性呼吸器感染症定点から報告されたインフルエンザは10.35(報告数33,217例)、COVID-19は1.13(報告数3,629例)であった(図1A)。なお、報告定点数は3,210力所であった。

小児科定点から報告されたRSウイルス感染症は0.35(報告数677例)、咽頭結膜熱は0.13(報告数255例)、ヘルパンギーナは0.01(報告数18例)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は0.82(報告数1,600例)であった(図1B)。なお、報告定点数は1,951力所であった。

図1: 週ごとのARIの定点当たり報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年4月7日~2026年1月4日)

図1A: 週ごとのインフルエンザおよびCOVID-19の定点当たり報告数

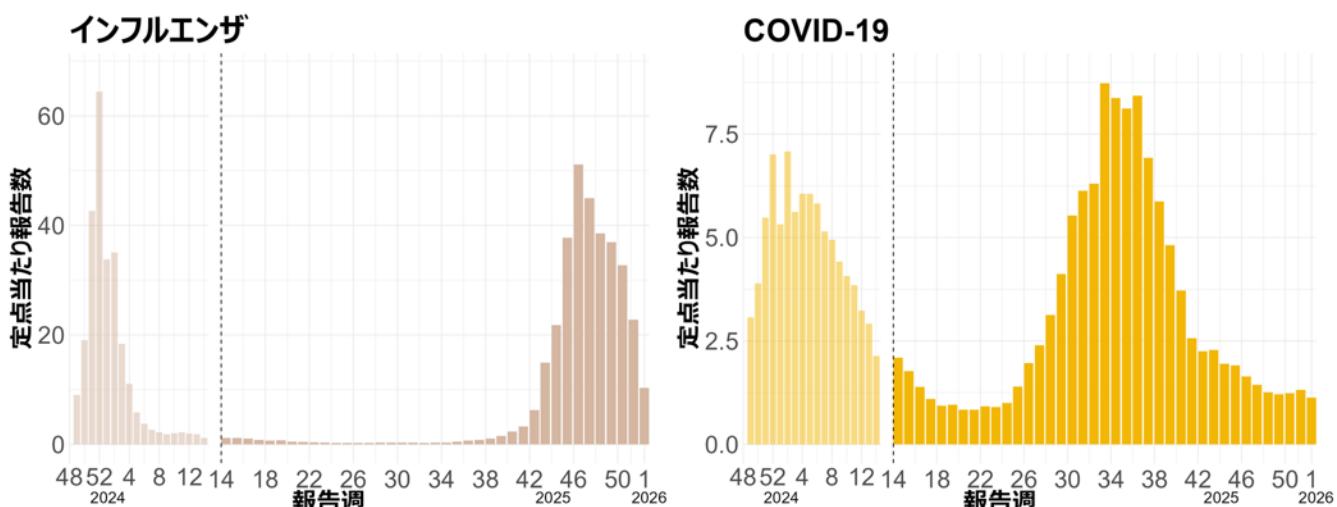
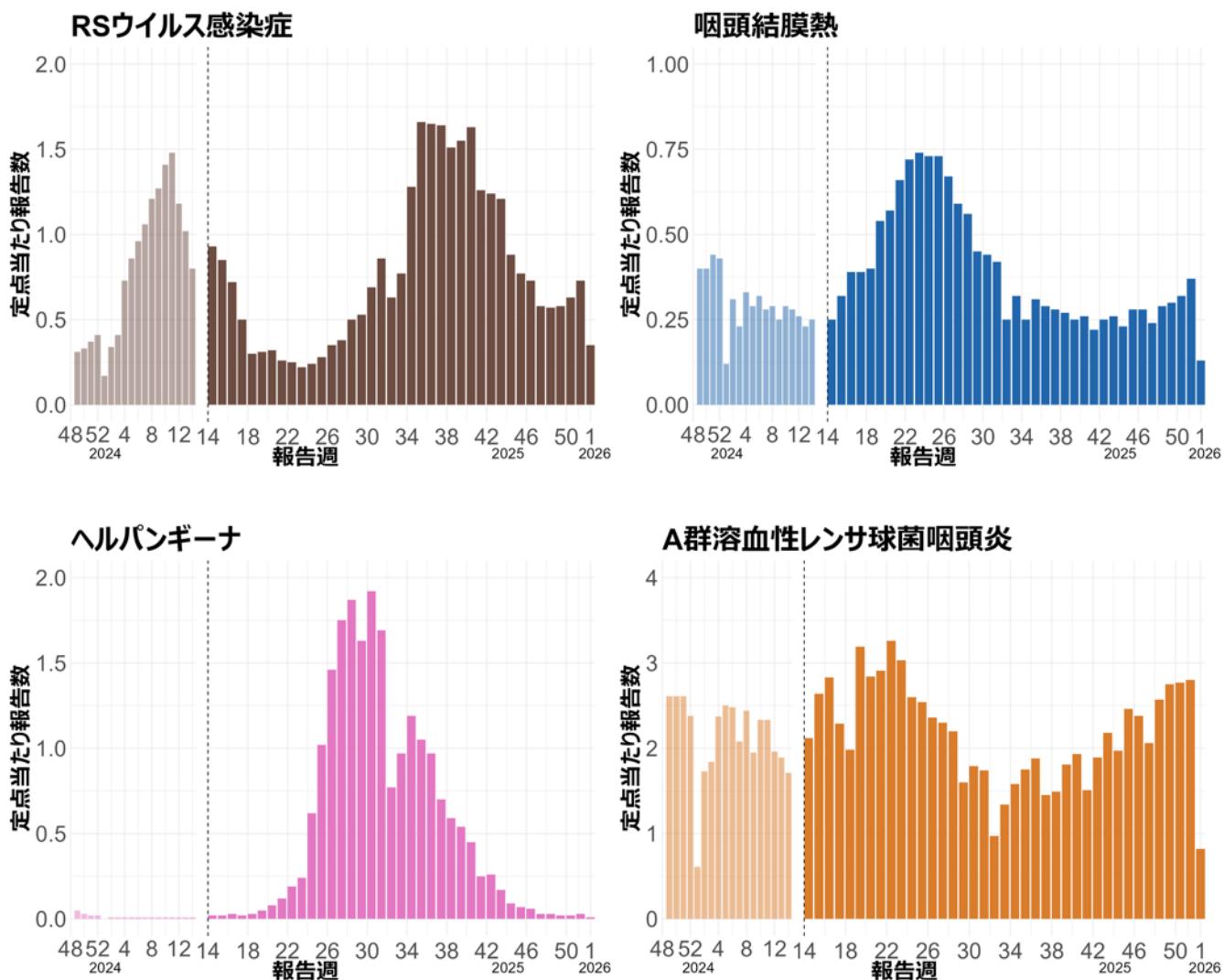


図 1B: 週ごとの感染症別の定点当たり報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2024年11月25日~2026年1月4日)

注)報告数は、当該週の IDWR で還元したデータの再掲である。

注)定点数の変更をうけて、2025年第14週と第15週の間にスペースと点線を入れ、棒グラフに濃淡をつけて区別している。

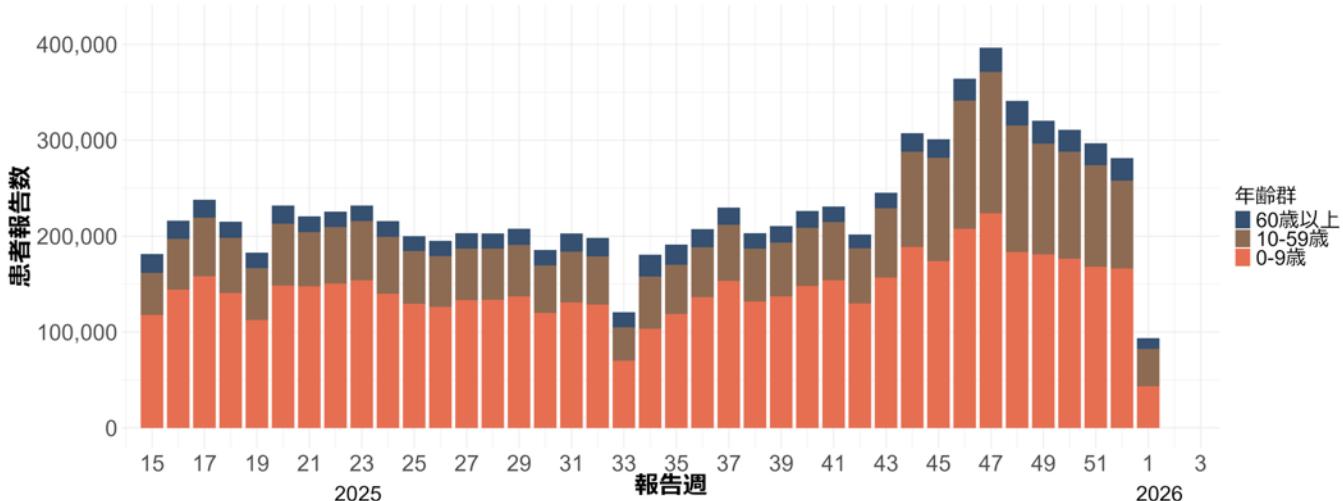
注)2025年4月7日(第15週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19 定点(約 5,000 医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約 3,000 医療機関)に変更、小児科定点は約 3,000 医療機関から約 2,000 医療機関に変更された。

1.2. 全国の年齢群別報告数

2026年第1週に定点から報告されたARIの報告数を年齢群別にみると、0-9歳では43,351例、10-59歳では39,177例、60歳以上は11,105例であった(図2)。

各感染症の年齢群別報告数の推移をみると、インフルエンザ、COVID-19はすべての年齢群で減少した(表1A)。またRSウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はすべての年齢群で減少した(表1B)。週ごとの年齢群別報告数を図2Aおよび図2Bに示す。なお、インフルエンザ及びCOVID-19の60歳以上はそれぞれ3,145例、1,355例であり、うち80歳以上はそれぞれ787例、566例であった。

図2: 週ごとのARIの年齢群別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年4月7日~2026年1月4日)

図2A: 週ごとのインフルエンザおよびCOVID-19の年齢群別報告数

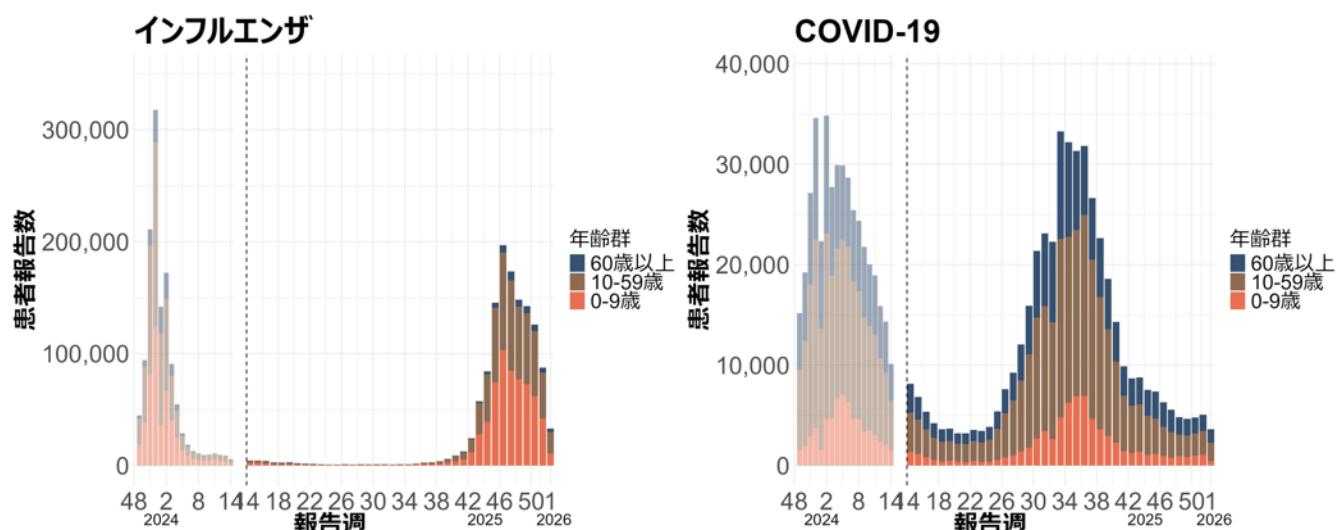
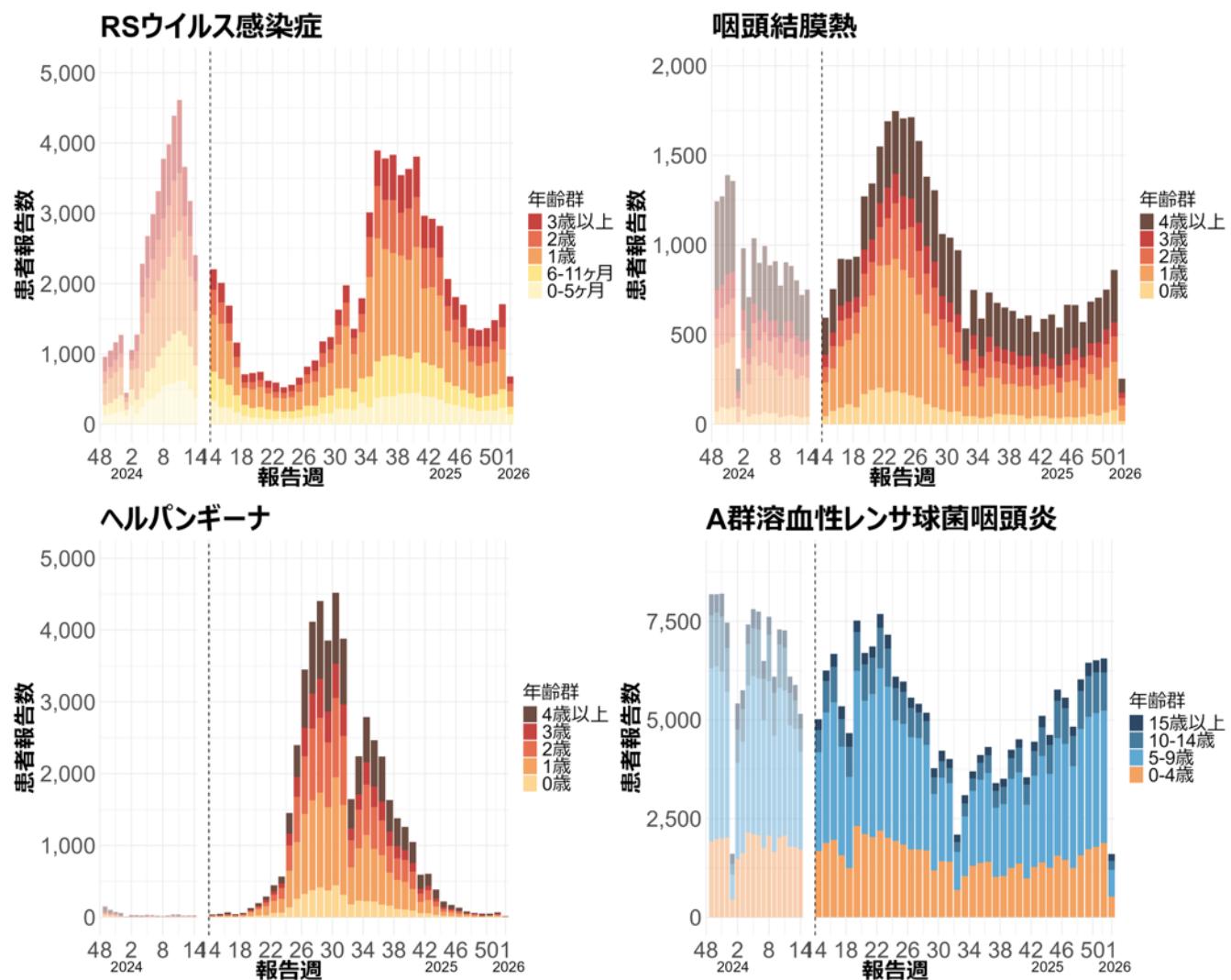


図 2B: 週ごとの感染症別の年齢群別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2024年11月25日~2026年1月4日)

注)報告数は、当該週のIDWRで還元したデータの再掲である。

注)定点数の変更をうけて、2025年第14週と第15週の間にスペースと点線を入れ、棒グラフに濃淡をつけて区別している。

注)2025年4月7日(第15週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19定点(約5,000医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約3,000医療機関)に変更、小児科定点は約3,000医療機関から約2,000医療機関に変更された。

表 1A: 当該週におけるインフルエンザおよびCOVID-19の年齢群別報告数

年齢群	インフルエンザ	COVID-19
0-9歳	10,829	430

年齢群	インフルエンザ	COVID-19
	(0.26)	(0.40)
10-59 歳	19,243	1,844
	(0.47)	(0.77)
60 歳以上	3,145	1,355
	(0.68)	(0.85)
計	33,217	3,629
	(0.38)	(0.72)

表 1B: 当該週における感染症別の年齢群別報告数

年齢群	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	ヘルパンギーナ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
0 歳	248	19	4	10
	(0.50)	(0.24)	(0.50)	(0.48)
1-4 歳	398	173	9	514
	(0.36)	(0.30)	(0.20)	(0.28)
5-14 歳	27	56	5	906
	(0.26)	(0.29)	(0.38)	(0.21)
15 歳以上	4	7	0	170
	(0.25)	(0.44)	(0.00)	(0.49)
計	677	255	18	1,600
	(0.40)	(0.30)	(0.27)	(0.24)

出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 7 日時点, データ範囲: 2025 年 12 月 29 日～2026 年 1 月 4 日)

注)カッコ内の数値は前週比であり、前週の報告数は当該週の IDWR で還元したデータを用いた。なお、年齢階級別報告数の詳細については IDWR(定点把握の対象となる 5 類感染症ページ)で還元しているので参照のこと。

注)前週の報告数が 0 であった場合は、前週比の欄に「—」と表記する。

1.3. 都道府県別の定点当たり報告数

2026年第1週のARIの定点当たり報告数の上位3都道府県は、宮崎県が57.83で最も多く、次いで群馬県が53.21、さらに福岡県が52.10であった(図3A)。定点当たり報告数は11.4~57.83であった(図4)。

定点当たり報告数が多かった上位3都道府県は、インフルエンザでは宮崎県、鹿児島県、沖縄県であった。COVID-19では北海道、福島県、秋田県であった。RSウイルス感染症では岐阜県、群馬県、香川県であった。咽頭結膜熱では宮崎県、山形県、群馬県であった。ヘルパンギーナでは沖縄県、茨城県/福岡県、大分県であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎では茨城県、福岡県、北海道であった(表3)。

インフルエンザの定点当たり報告数が10を上回った都道府県は23件であり、20を上回った都道府県は4件であった(図3B)。

表2: 当該週における都道府県別ARIの定点当たり報告数

都道府県	報告数	定点当たり報告数	前週比
北海道	4,286	29.56	0.39
青森県	1,261	28.02	0.43
岩手県	1,092	26.00	0.28
宮城県	1,241	22.56	0.27
秋田県	1,009	45.86	0.73
山形県	1,063	39.37	0.34
福島県	1,656	34.50	0.49
茨城県	2,547	46.31	0.44
栃木県	1,175	40.52	0.27
群馬県	1,277	53.21	0.27
埼玉県	5,447	50.91	0.31
千葉県	3,254	21.27	0.21
東京都	6,345	22.50	0.23
神奈川県	3,332	22.07	0.17
新潟県	1,481	28.48	0.41
富山県	971	24.90	0.24
石川県	1,003	21.34	0.30
福井県	881	22.59	0.52
山梨県	399	11.40	0.22

都道府県	報告数	定点当たり報告数	前週比
長野県	1,799	44.98	0.31
岐阜県	1,615	37.56	0.67
静岡県	2,585	18.60	0.31
愛知県	4,733	29.04	0.33
三重県	1,608	37.40	0.33
滋賀県	1,213	28.21	0.31
京都府	1,303	21.36	0.27
大阪府	5,105	17.60	0.35
兵庫県	2,678	19.55	0.23
奈良県	242	14.24	0.12
和歌山県	642	14.27	0.25
鳥取県	966	33.31	0.44
島根県	949	49.95	0.54
岡山県	1,316	26.32	0.34
広島県	2,095	29.93	0.33
山口県	1,376	21.84	0.26
徳島県	756	22.91	0.36
香川県	819	35.61	0.28
愛媛県	1,117	42.96	0.33
高知県	1,177	30.97	0.44
福岡県	6,304	52.10	0.71
佐賀県	636	28.91	0.37
長崎県	1,820	37.14	0.43
熊本県	2,297	32.81	0.46
大分県	2,725	46.98	0.53
宮崎県	1,388	57.83	0.52

都道府県	報告数	定点当たり報告数	前週比
鹿児島県	2,516	44.14	0.48
沖縄県	2,133	47.40	0.76

出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年12月29日~2026年1月4日)

注)前週の報告数は、当該週のIDWRで還元したデータを用いた。

注)前週の報告数が0であった場合は、前週比の欄に「-」と表記する。

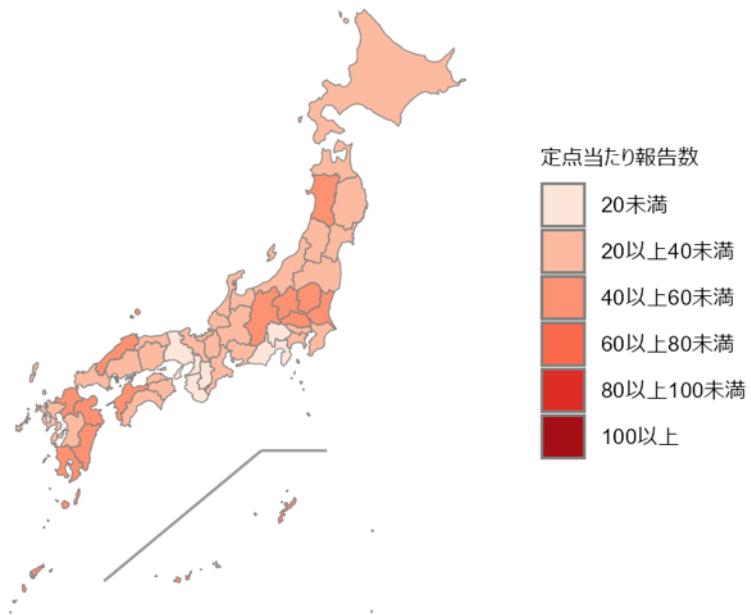
表3: 当該週における感染症別定点当たり報告数の上位3都道府県

順位	インフルエンザ	COVID-19	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	ヘルパンギーナ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
1	都道府県	宮崎県	北海道	岐阜県	宮崎県	沖縄県
	定点当たり報告数	38.71	4.51	1.08	1.42	0.08
2	都道府県	鹿児島県	福島県	群馬県	山形県	茨城県
	定点当たり報告数	23.19	4.44	0.93	0.55	0.07
3	都道府県	沖縄県	秋田県	香川県	群馬県	福岡県
	定点当たり報告数	23.18	3.32	0.92	0.47	0.07

出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年12月29日~2026年1月4日)

注)定点当たり報告数が同値であった場合には、都道府県番号の昇順により記載する。

図 3A: 当該週における都道府県別 ARI の定点当たり報告数

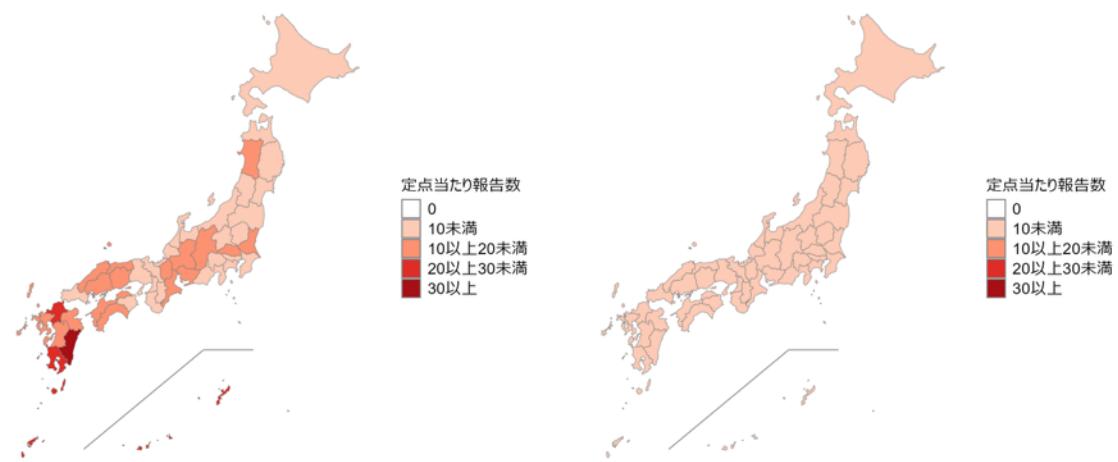


出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年12月29日~2026年1月4日)

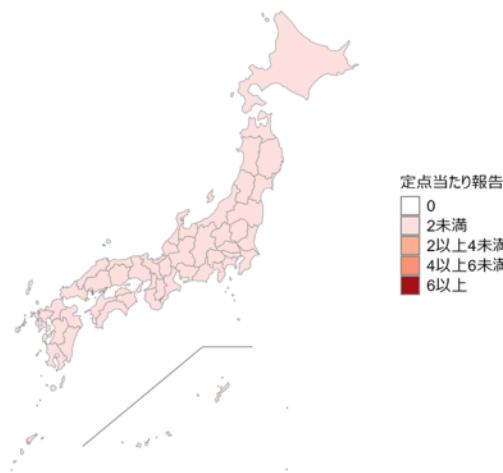
図 3B: 当該週における各感染症の都道府県別定点当たり報告数

インフルエンザ

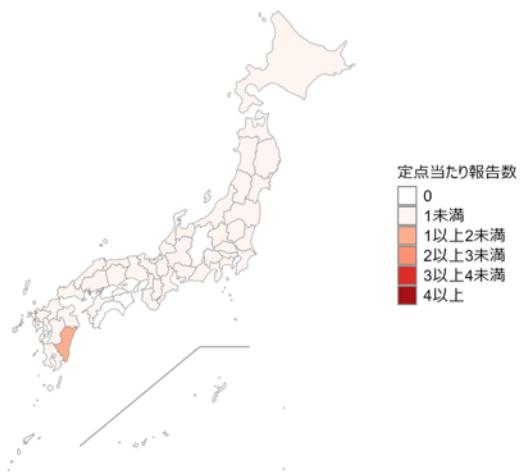
COVID-19



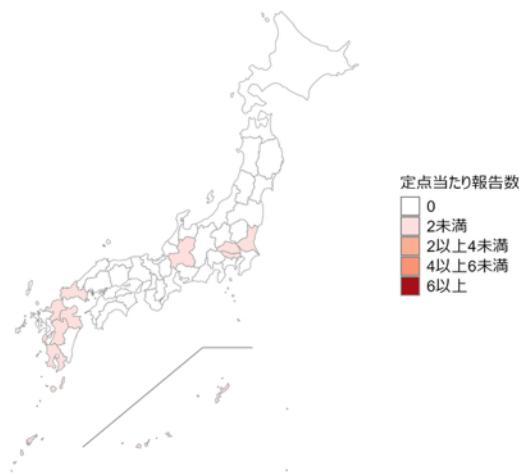
RSウイルス感染症



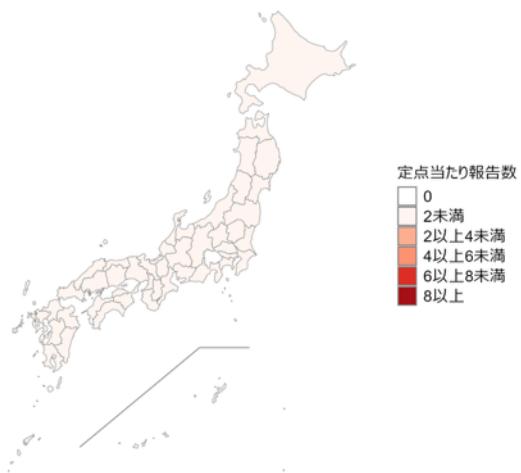
咽頭結膜熱



ヘルパンギーナ

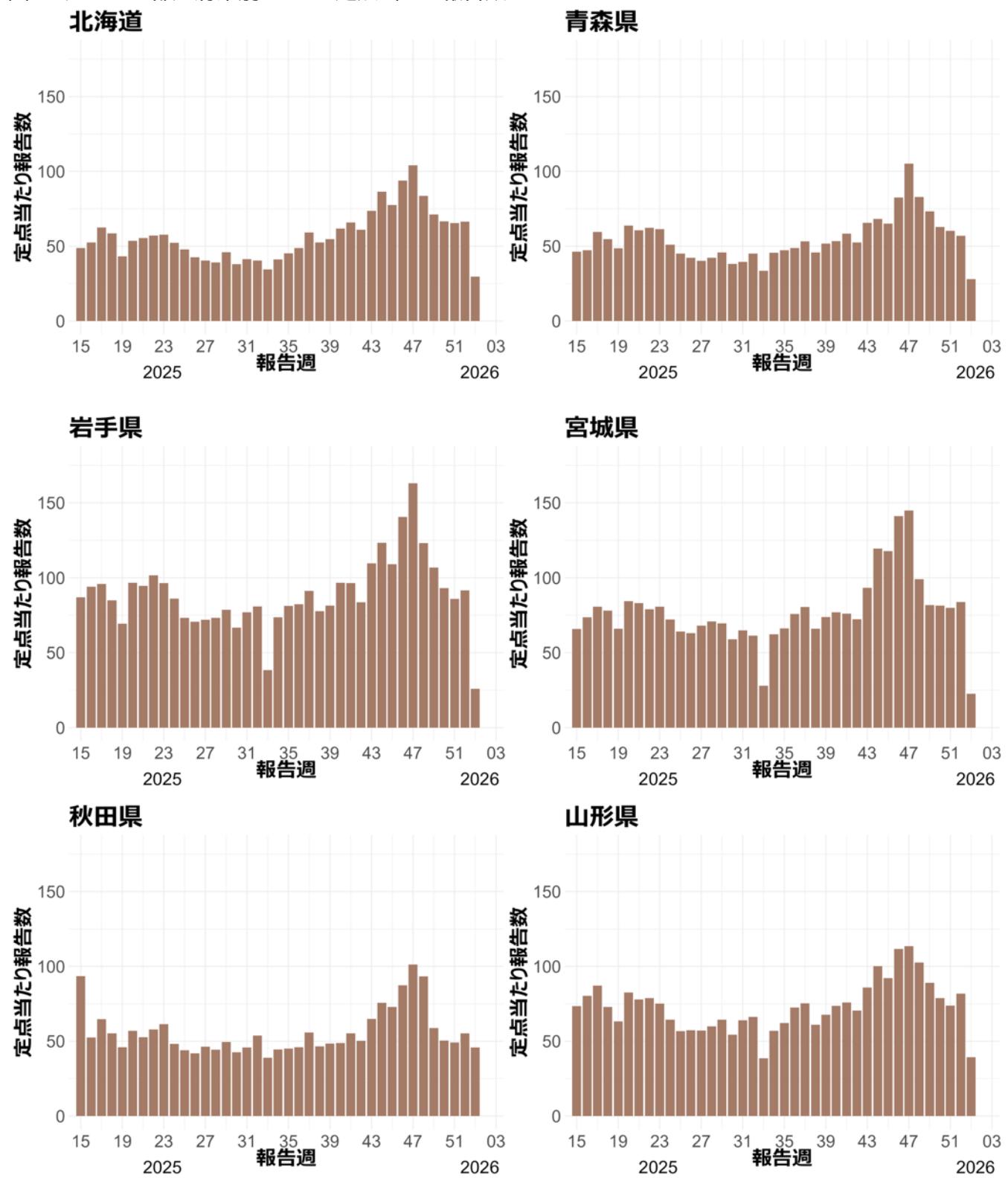


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

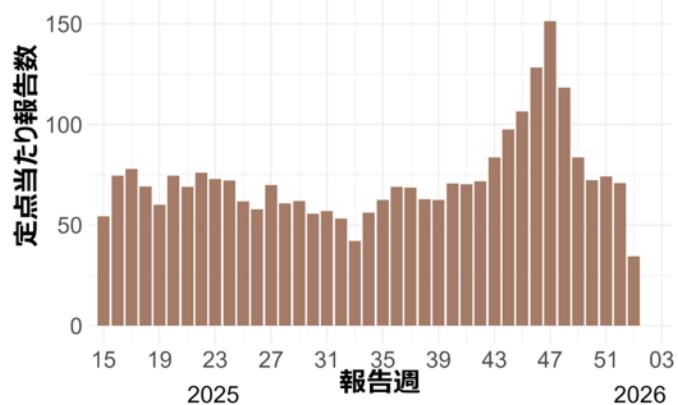


出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年12月29日~2026年1月4日)

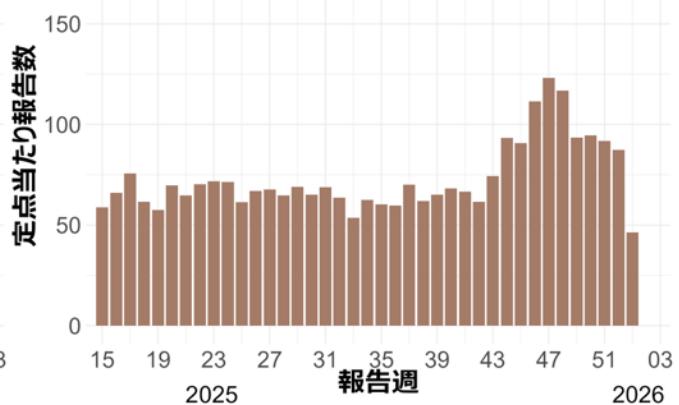
図 4: 週ごとの都道府県別 ARI の定点当たり報告数



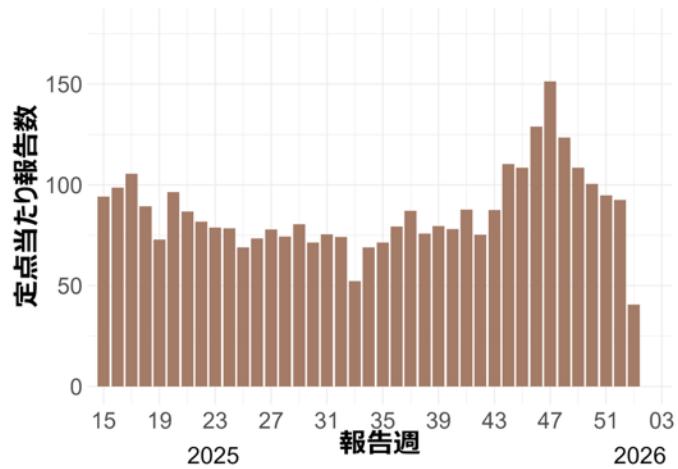
福島県



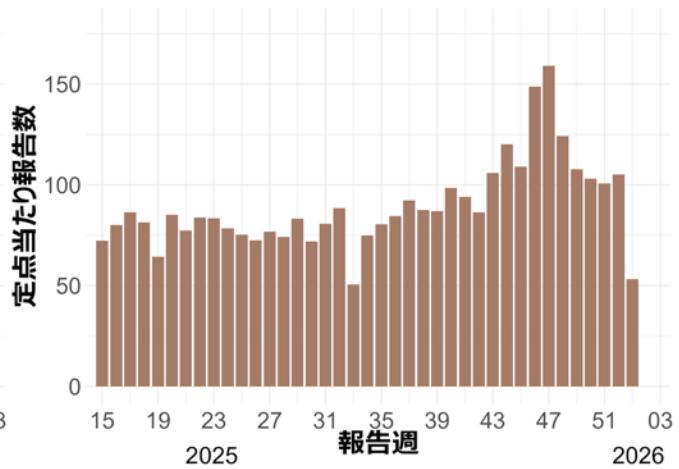
茨城県



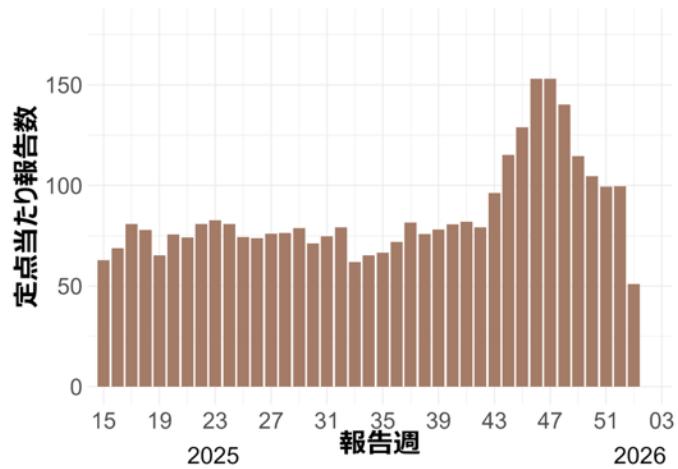
栃木県



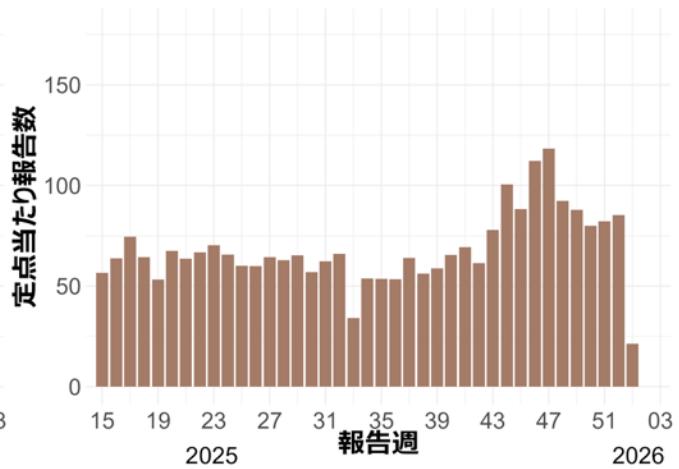
群馬県



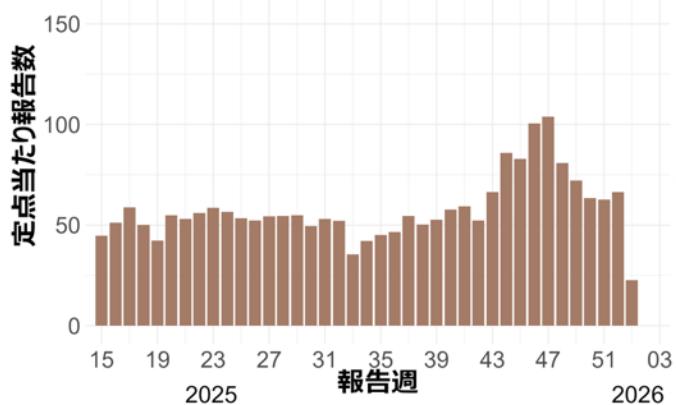
埼玉県



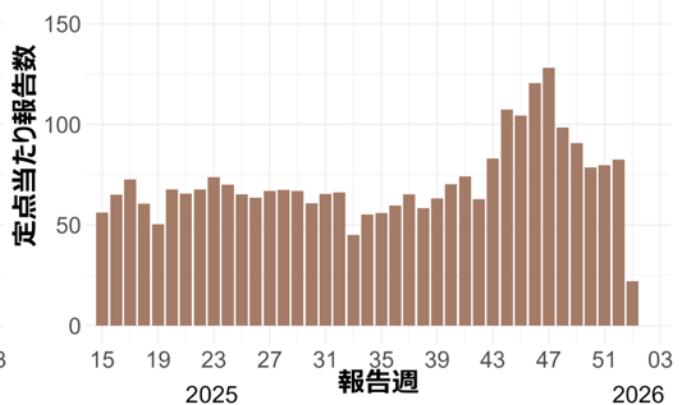
千葉県



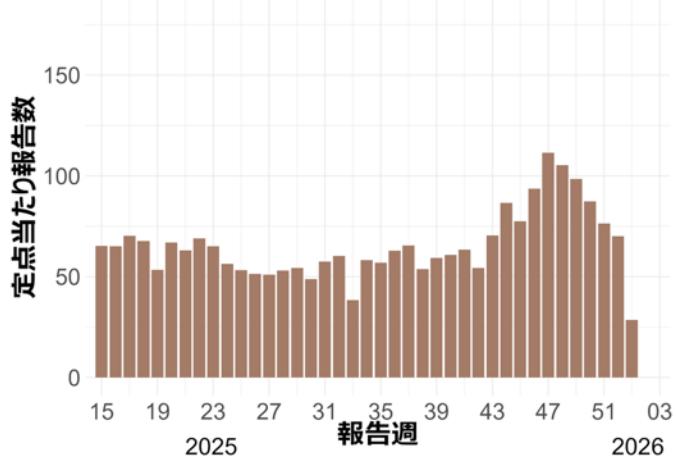
東京都



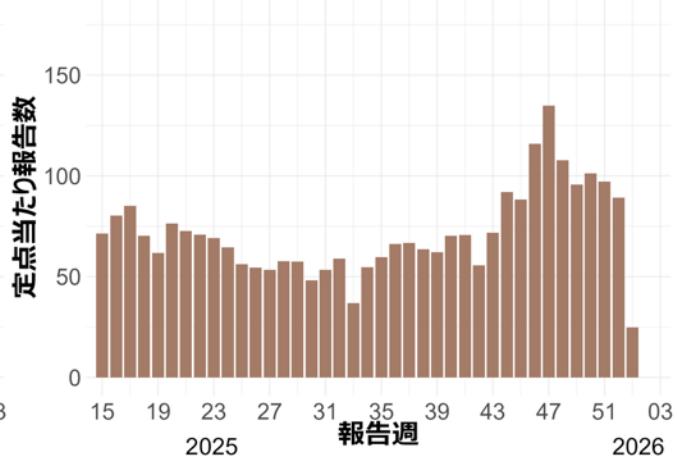
神奈川県



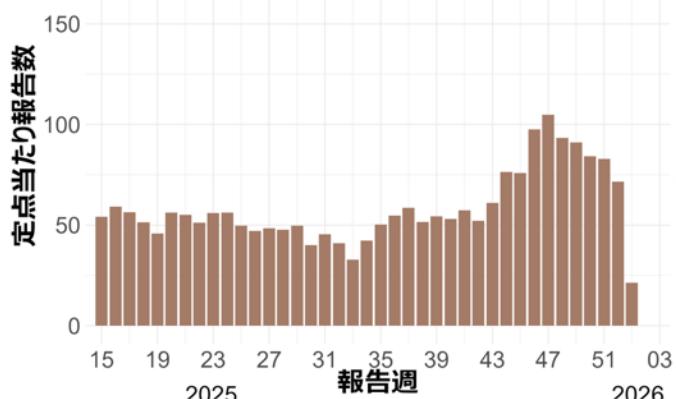
新潟県



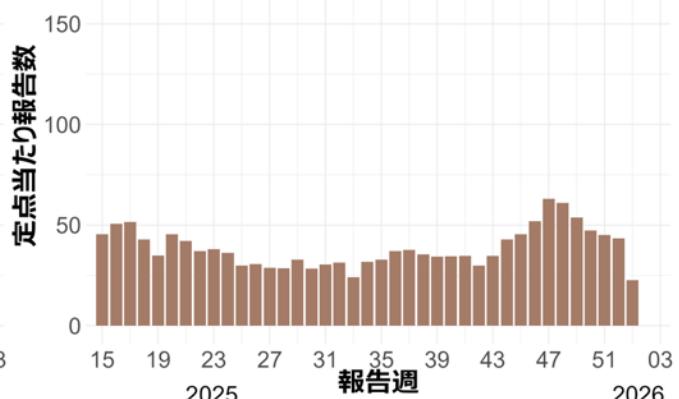
富山県



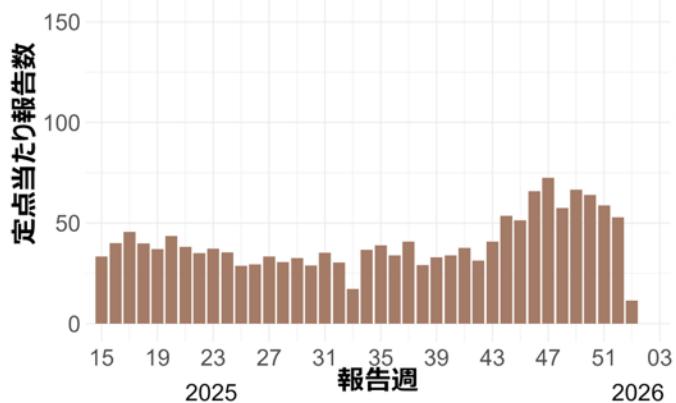
石川県



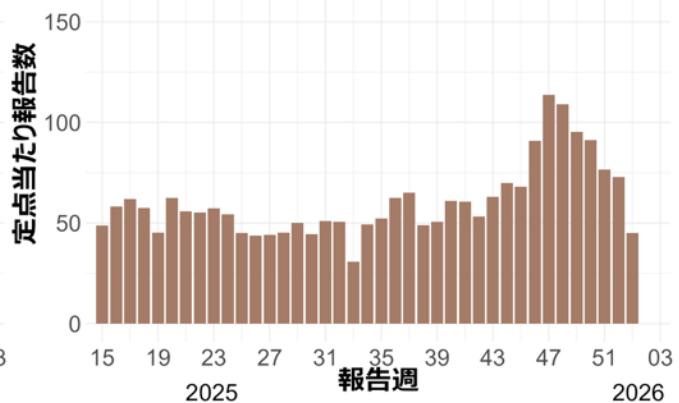
福井県



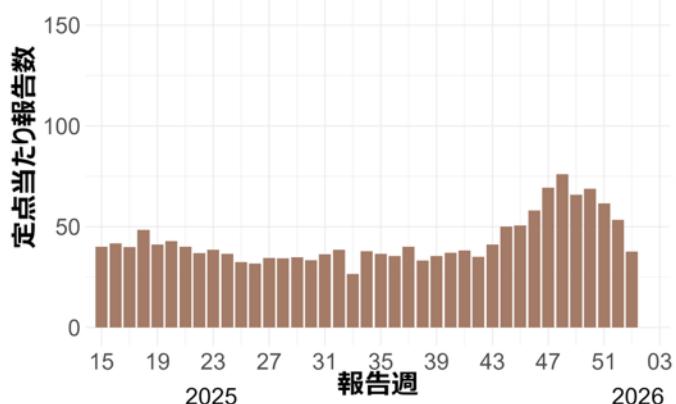
山梨県



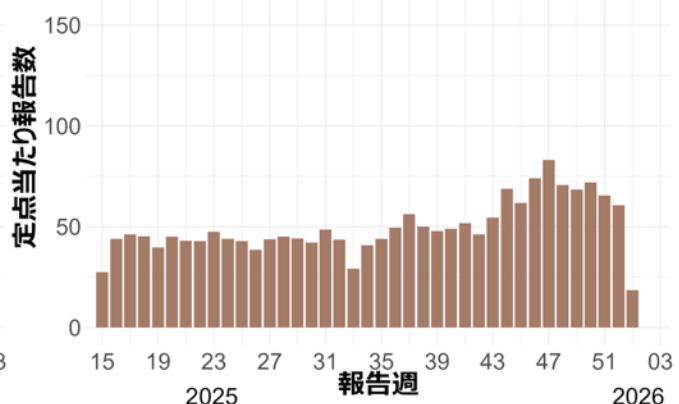
長野県



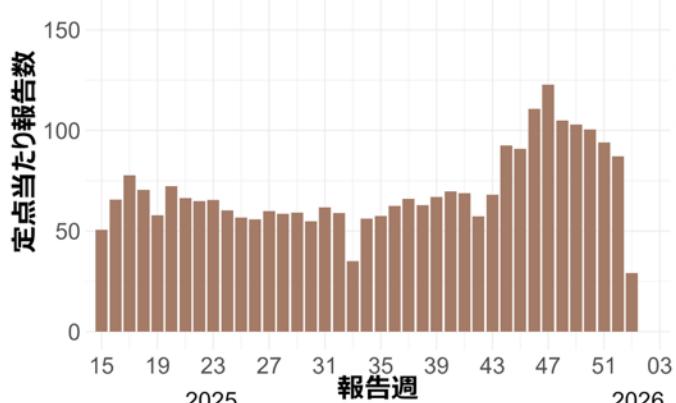
岐阜県



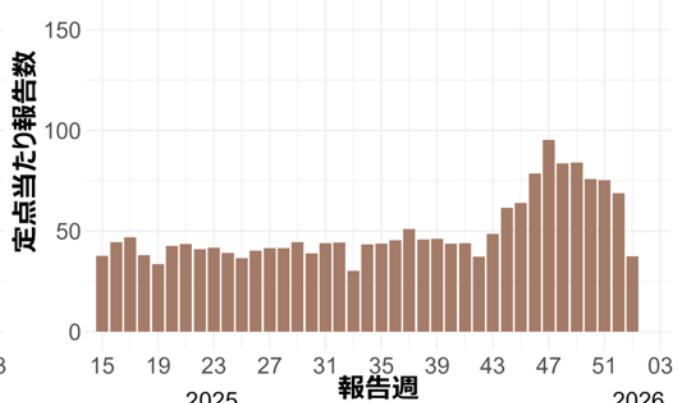
静岡県



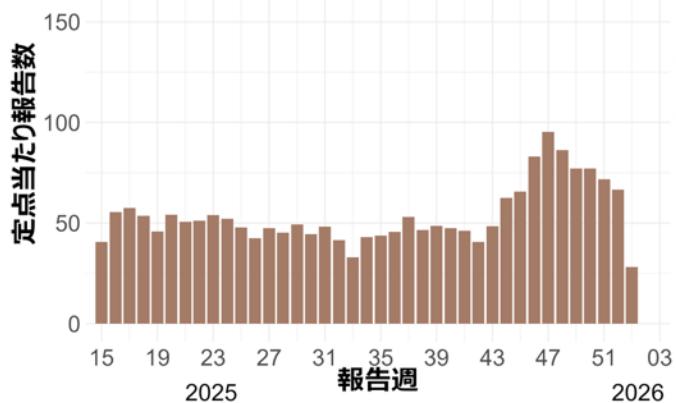
愛知県



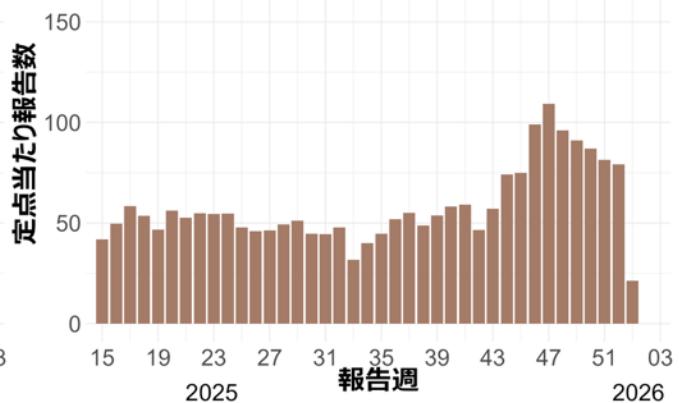
三重県



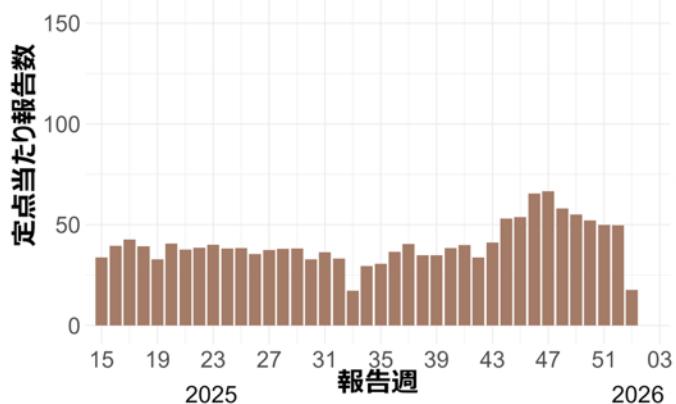
滋賀県



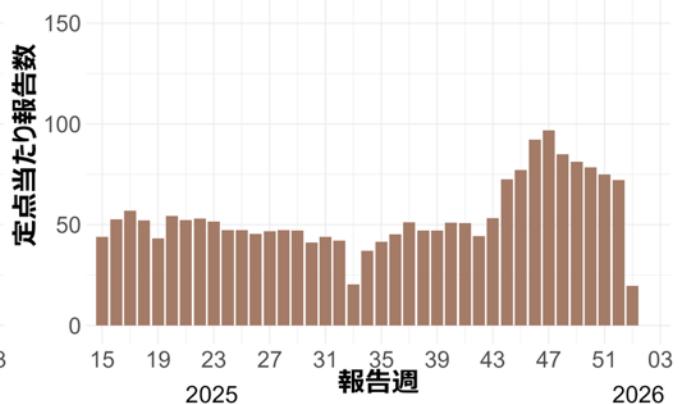
京都府



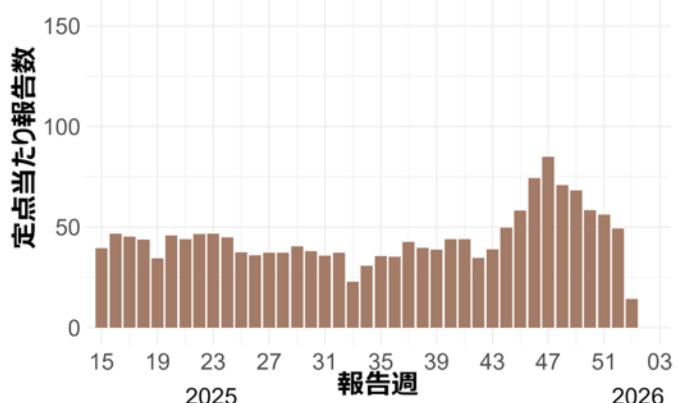
大阪府



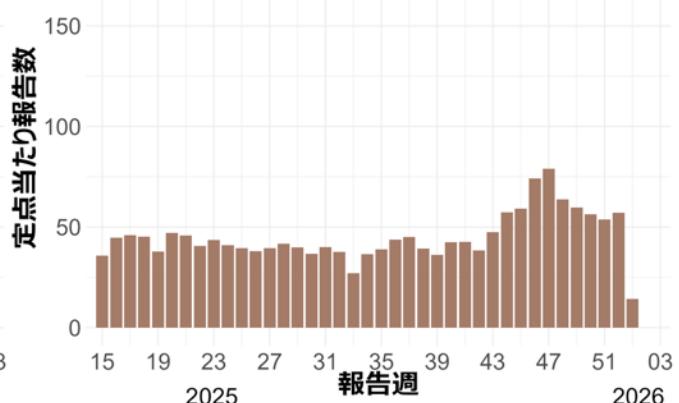
兵庫県



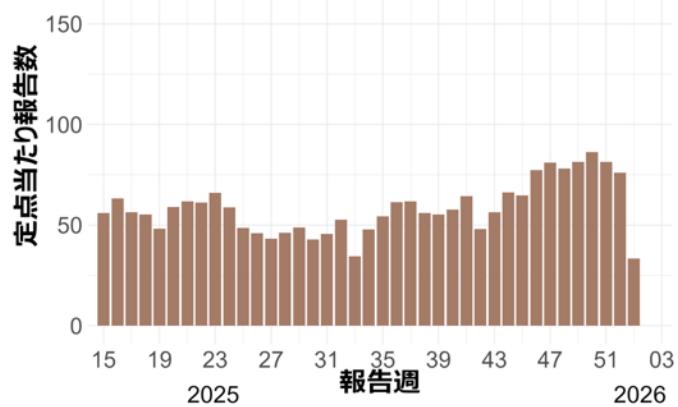
奈良県



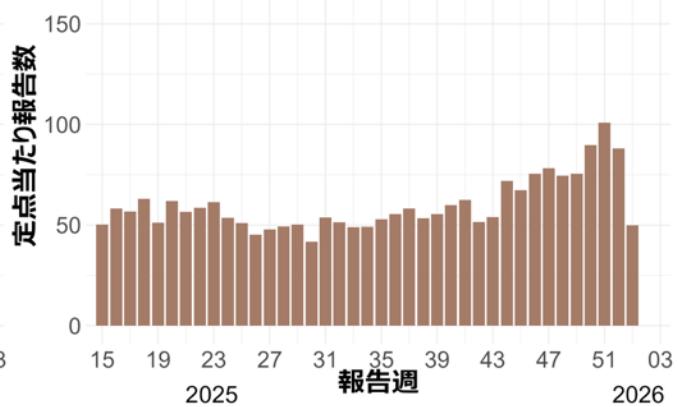
和歌山県



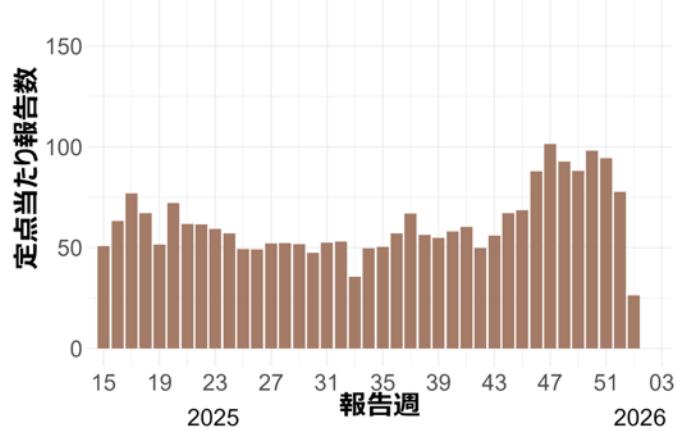
鳥取県



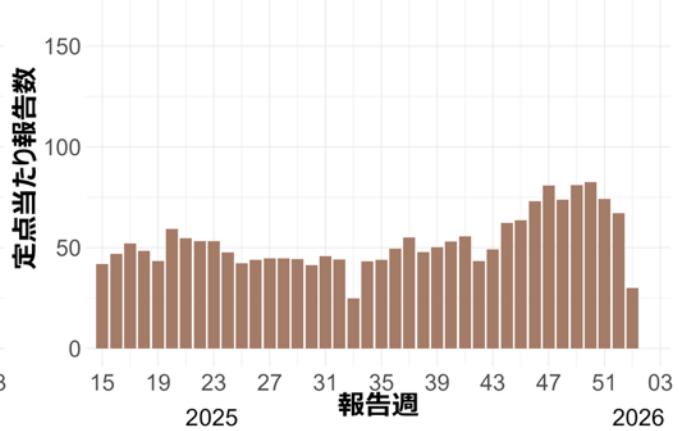
島根県



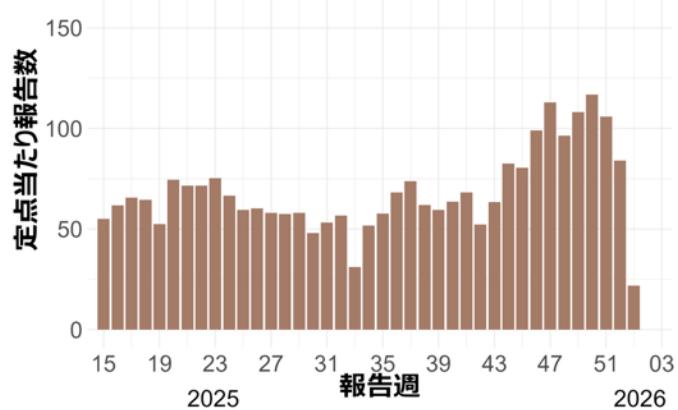
岡山県



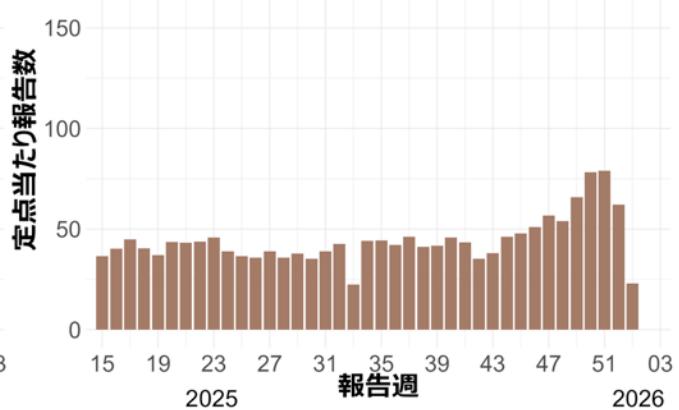
広島県



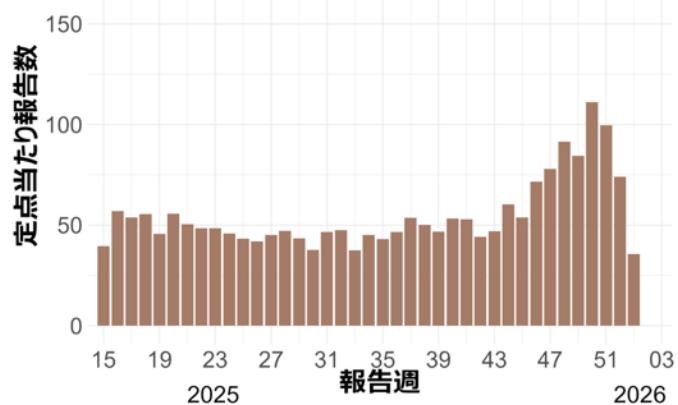
山口県



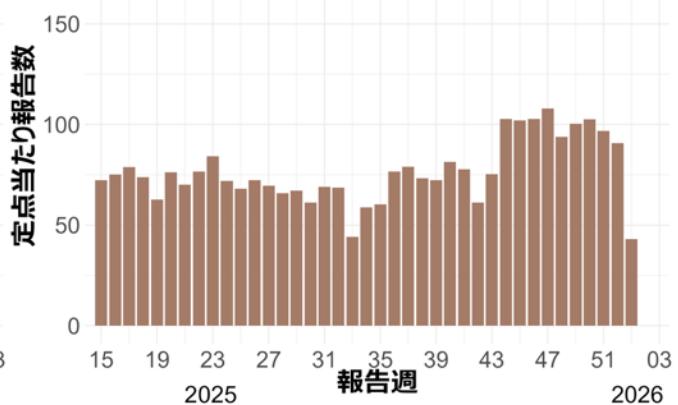
徳島県



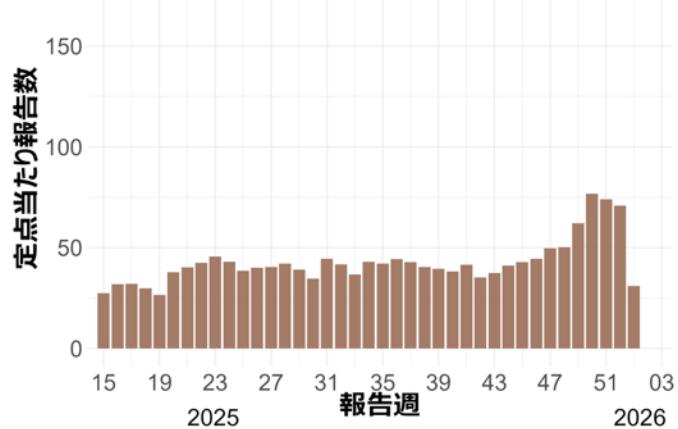
香川県



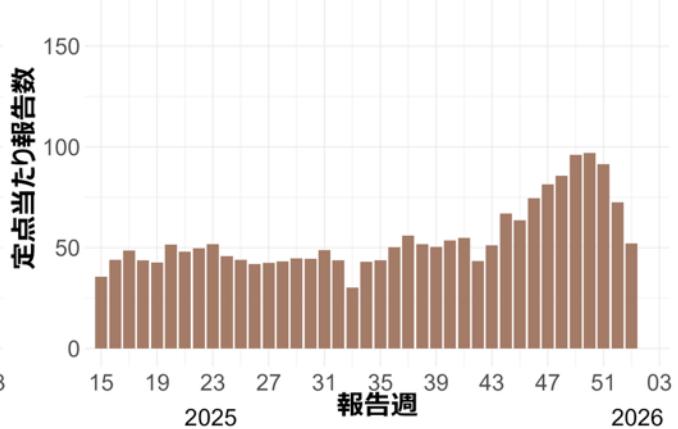
愛媛県



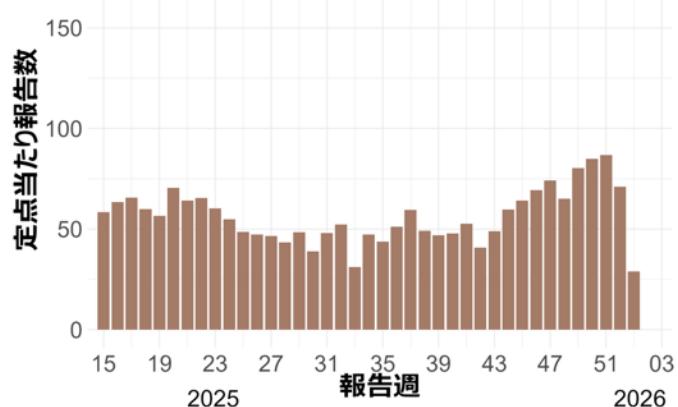
高知県



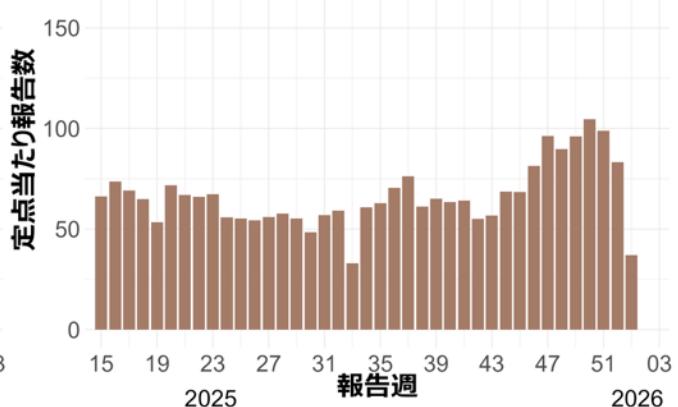
福岡県



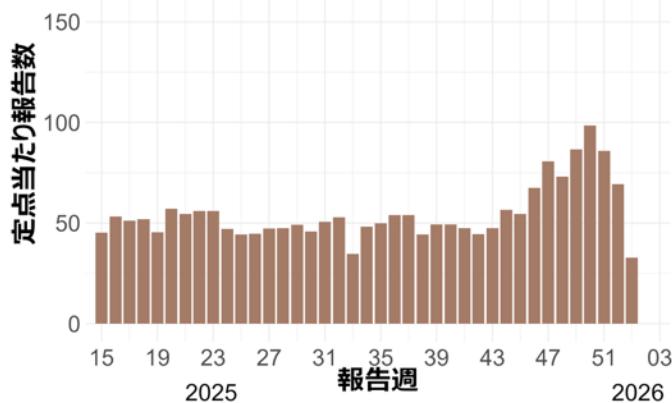
佐賀県



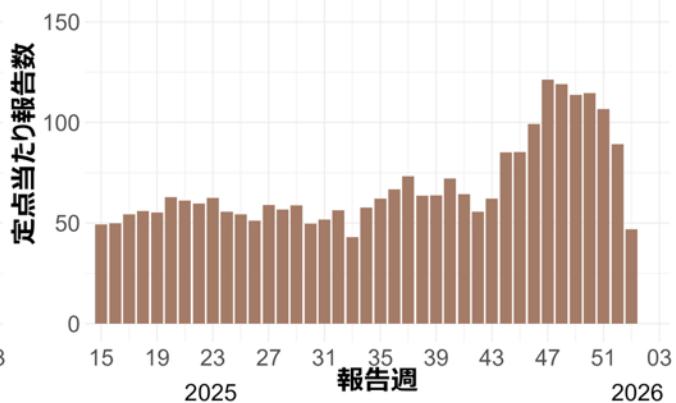
長崎県



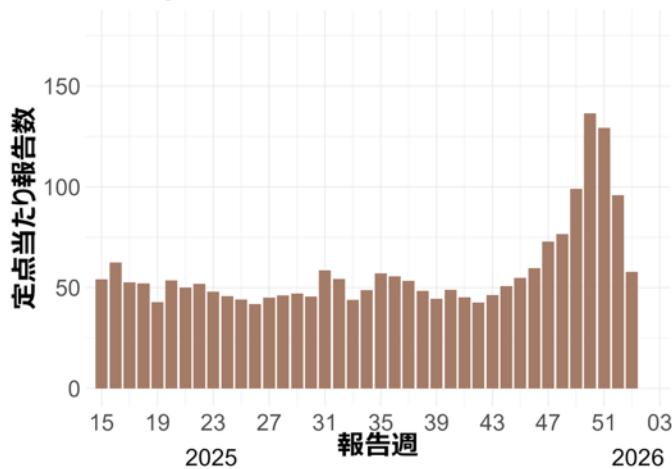
熊本県



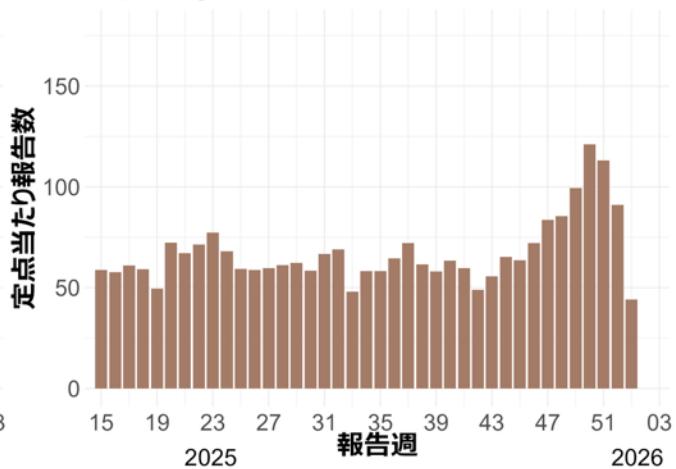
大分県



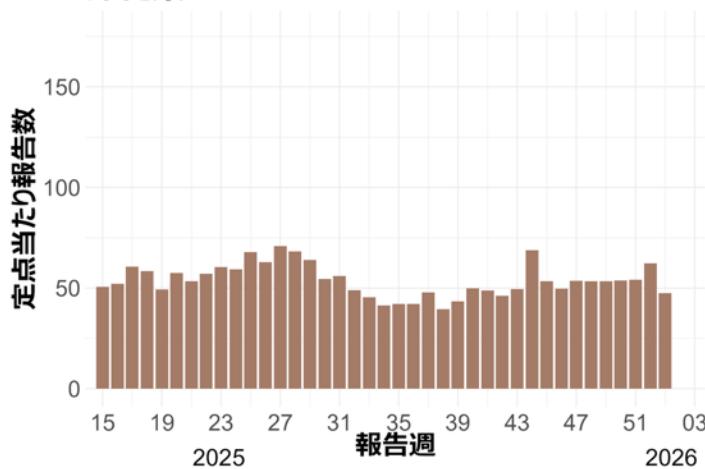
宮崎県



鹿児島県



沖縄県



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年4月7日～2026年1月4日)

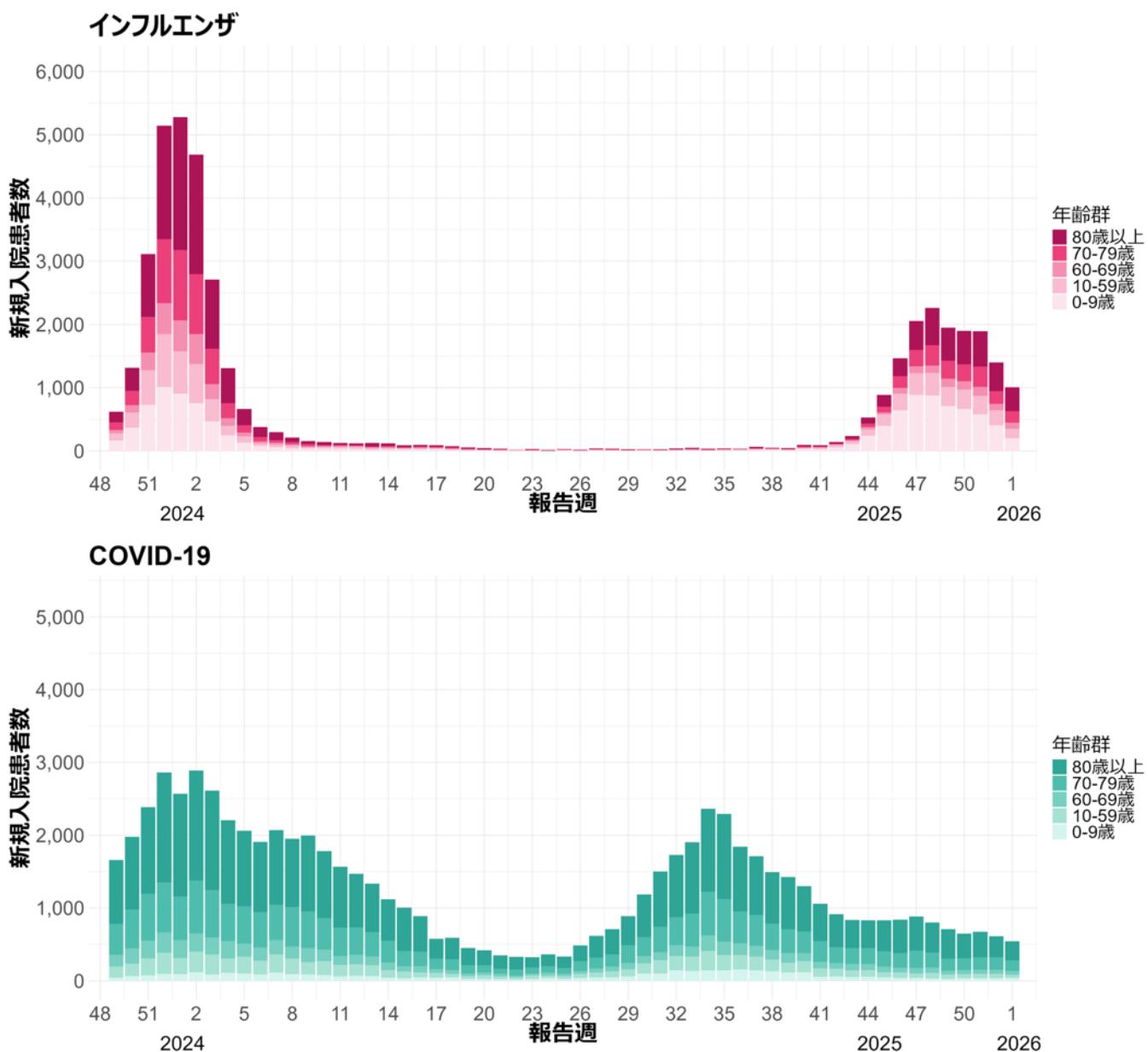
注)報告数は、当該週のIDWRで還元したデータの再掲である。

1.4. 全国のインフルエンザおよび COVID-19 の新規入院患者数

2026年第1週に基幹定点から報告された、新規入院患者数の推移を図5に、年齢群別報告数を表4に示す。インフルエンザは1,009例で前週と比較して392例減少した。COVID-19は541例で前週と比較して71例減少した。

年齢群別でみると、インフルエンザでは0-9歳で201例、10-59歳で153例、60-69歳で92例、70-79歳で182例、80歳以上で381例であった。COVID-19では0-9歳で40例、10-59歳で41例、60-69歳で53例、70-79歳で145例、80歳以上で262例であった。前週と比べてインフルエンザはすべての年齢群で減少した。COVID-19は0-9歳では増加、10歳以上では減少した。

図5: 基幹定点医療機関から報告されたインフルエンザおよびCOVID-19の新規入院患者数



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2024年11月25日~2026年1月4日)

表 4: 当該週における基幹定点医療機関から報告された新規入院患者数

年齢群	インフルエンザ	COVID-19
0-9 歳	201 (0.50)	40 (1.21)
10-59 歳	153 (0.65)	41 (0.66)
60-69 歳	92 (0.91)	53 (0.88)
70-79 歳	182 (0.90)	145 (0.87)
80 歳以上	381 (0.84)	262 (0.90)
計	1,009 (0.72)	541 (0.88)

出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年12月29日~2026年1月4日)

注)カッコ内の数値は前週比であり、前週の報告数は当該週のIDWRで還元したデータを用いた。なお、年齢階級別報告数の詳細についてはIDWR(定点把握の対象となる5類感染症ページ)で還元しているので参照のこと。

注)前週の報告数が0であった場合は、前週比の欄に「-」と表記。

2. 病原体サーベイランスの状況

2.1. 全国の病原体別報告数

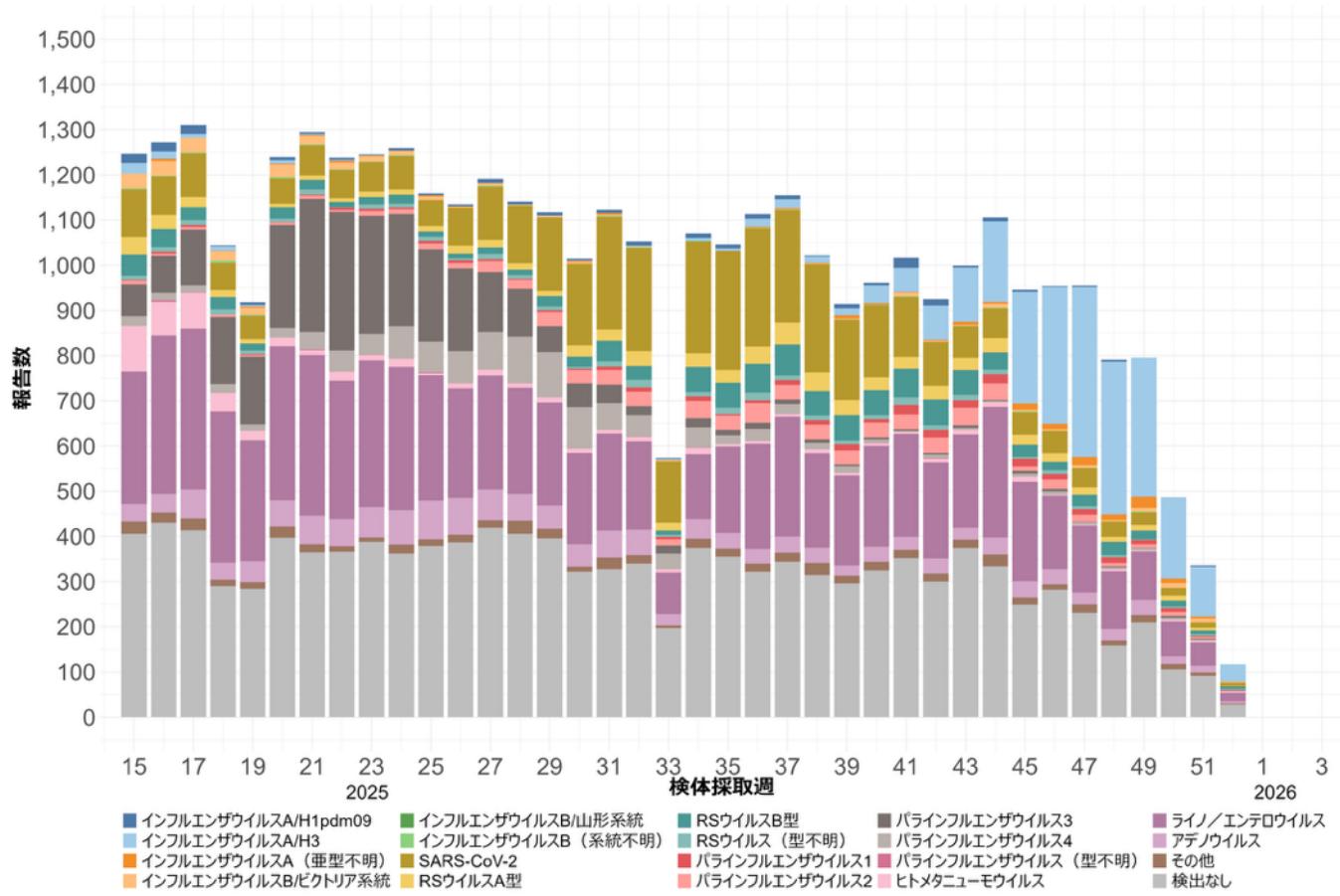
急性呼吸器感染症病原体定点(以下、ARI病原体定点)で2026年第1週に採取された検体の結果は、集計時点までに報告されなかった(図6)。したがって、陽性率は算出できなかった(図7)。なお、図6、図7は第52週号の再掲である。

第48週(11月24日~11月30日)に採取された検体は概ね結果登録が反映されており、その数は北海道・東北地方では73件、関東地方では307件、北陸地方では64件、東海地方では43件、近畿地方では58件、中国地方では94件、四国地方では25件、九州・沖縄地方では44件であった。最も多く検出された病原体は、北海道・東北地方、関東地方、北陸地方、東海地方、中国地方ではインフルエンザウイルスA、近畿地方、四国地方、九州・沖縄地方ではライノ/エンテロウイルスであった(図8)。

また検体採取週ごとの医療機関における全自動遺伝子解析装置等による検査結果を参考表に示す。第1

週は登録がなかった。

図 6: 検体採取週ごとの病原体別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年4月7日~2026年1月4日)

注)報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。

注)集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

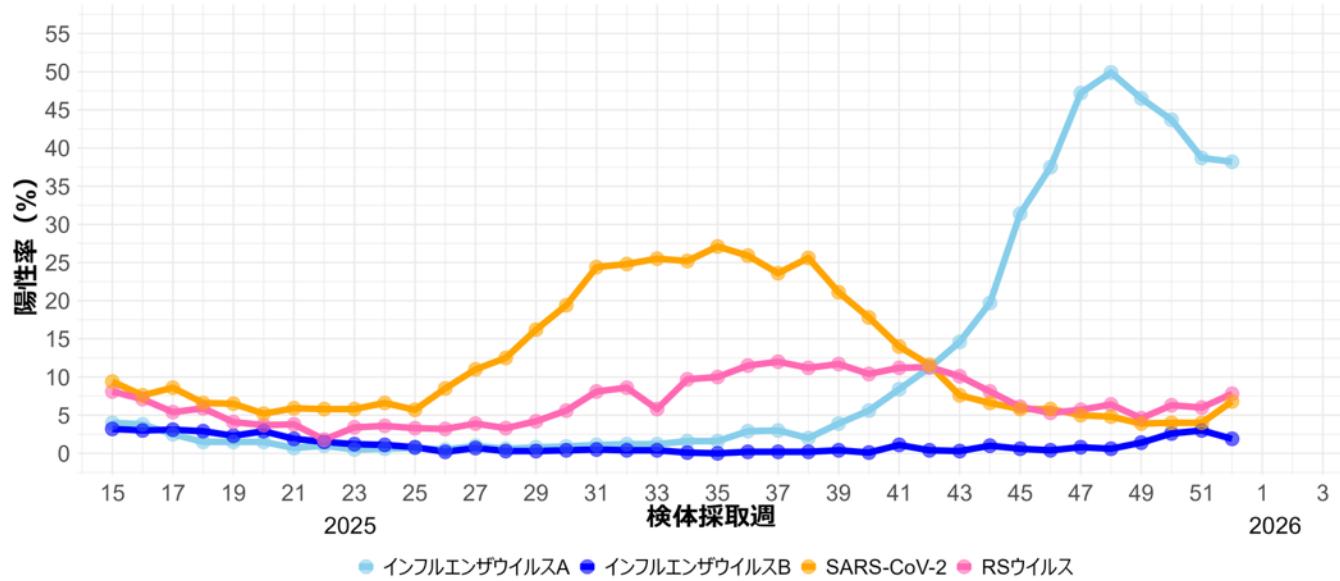
注)1つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上している。

注)ライノ／エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。

注)その他は、凡例に示されている病原体以外が検出されたものである。

注)検査結果が検出なし、また検査結果の掲載がない週及び地域については、病原体が検出されなかった場合もあるが、検査項目によっては未実施の場合も含まれることに注意が必要である。

図 7: 検体採取週ごとの病原体別陽性率



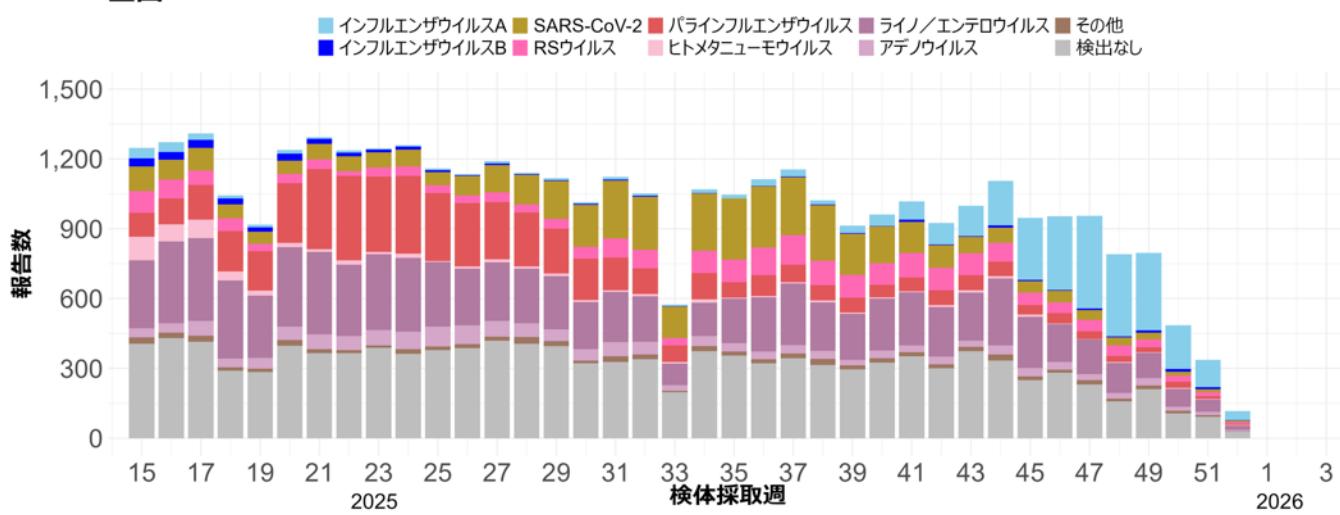
出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年4月7日~2026年1月4日)

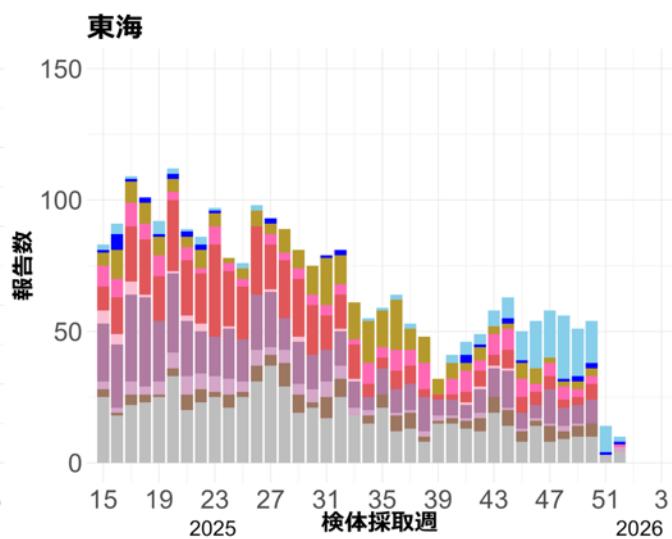
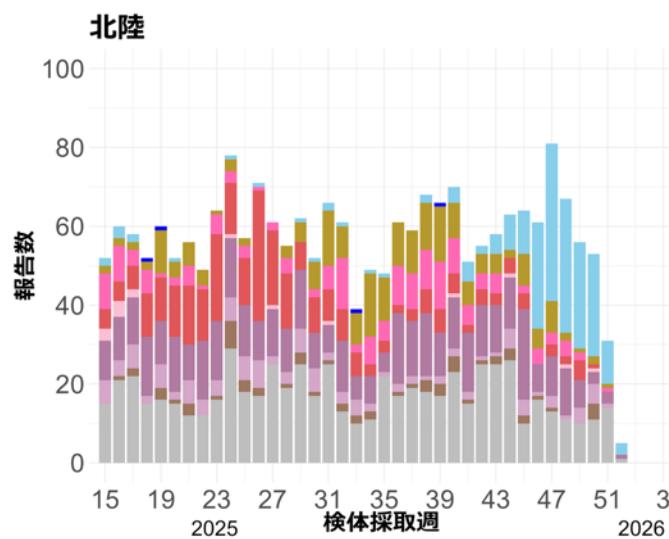
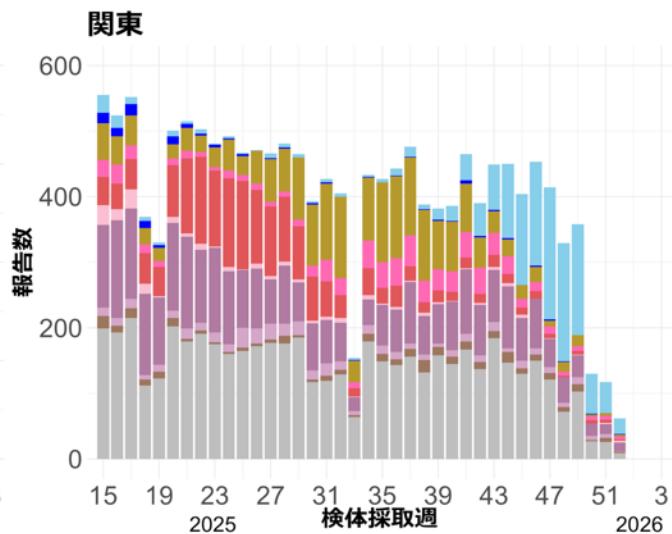
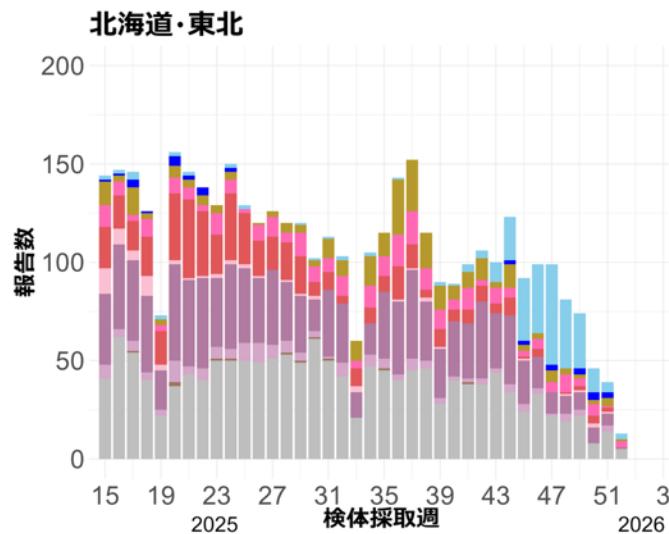
注)陽性率は、対象病原体の検査実施検体数を分母として算出((陽性数／検査実施数)×100)される。

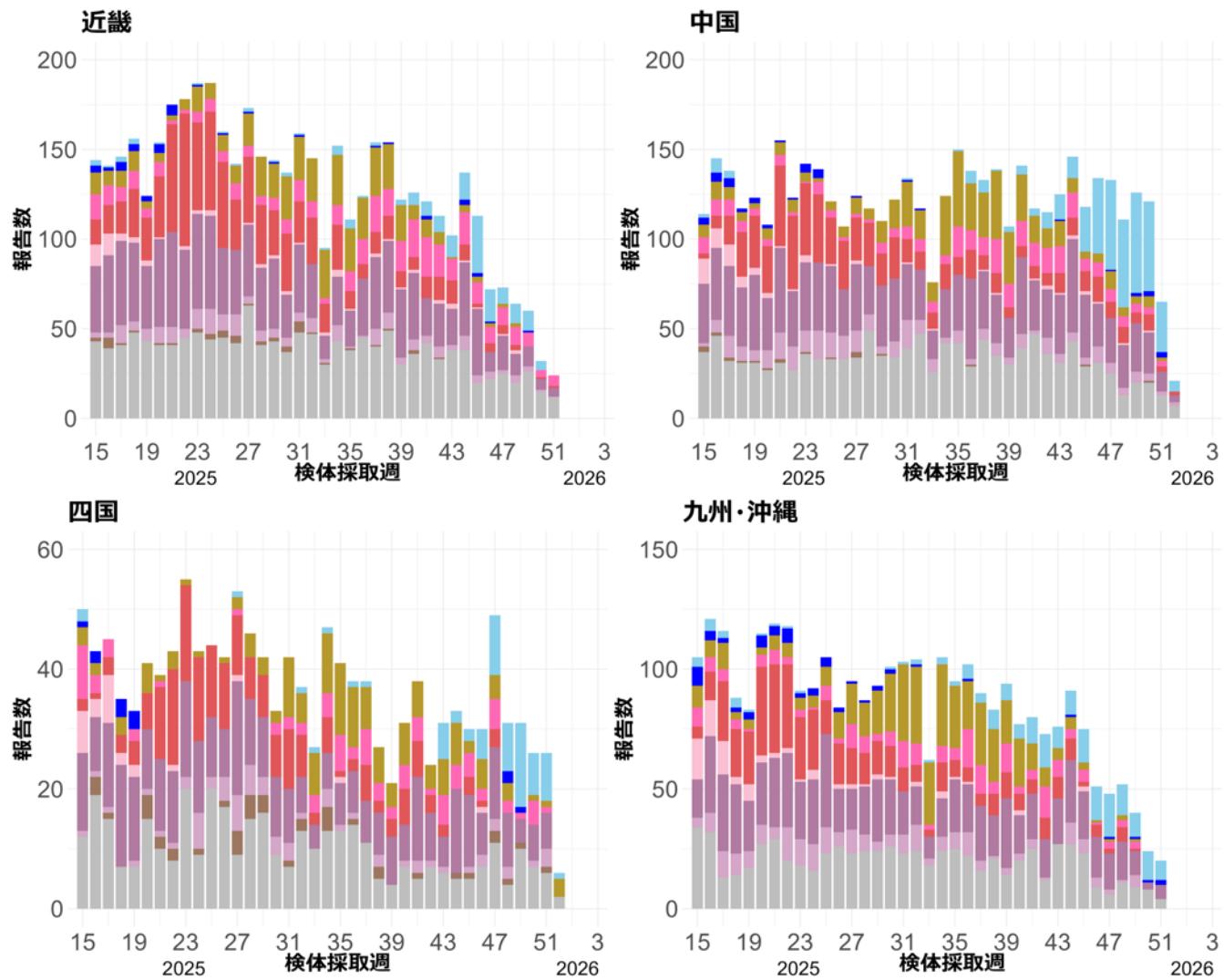
注)報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。

注)集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

図 8: 検体採取週ごとの全国および地域別、病原体別報告数
全国







出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2025年4月7日~2026年1月4日)

注)報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。

注)集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

注)1つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上している。

注)ライノ／エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。

注)その他は、凡例に示されている病原体以外が検出されたものである。

注)検査結果が検出なし、また検査結果の掲載がない週及び地域については、病原体が検出されなかった場合もあるが、検査項目によっては未実施の場合も含まれることに注意が必要である。

2.2. SARS-CoV-2 ゲノムサーベイランス

※今週の掲載はありません。

注意事項

本報では、急性呼吸器感染症定点および小児科定点としてあらかじめ指定された医療機関から週単位で報告された患者数を全国および都道府県ごとに集計した数値を用いている。都道府県別あるいは性別・年齢階級別報告数の詳細については感染症発生動向調査週報(IDWR)を参照されたい。なお、本報およびIDWRに掲載されている数値は暫定値であるため、年報での数値とは必ずしも一致しない。

患者サーベイランスの集計には感染症発生動向調査に報告されたデータのうち直近1週間は集計日時点のデータを、それ以前は最初の集計時点のデータを再掲している。遅れて報告されたり、修正されたりする場合があるため、集計値は暫定値であることに注意が必要である。

週ごとの感染症の動向は定点当たり報告数を用いて評価し、年齢群別の動向は報告数を用いて評価している。

病原体サーベイランスの集計では、全ての週に関して集計時点のデータを掲載している。自治体/地方衛生研究所によって集められた検体に対する病原体検査項目が異なることがある。また、自治体/地方衛生研究所によって検査実施および報告に要する日数が異なるため、検体採取週における病原体検出数は遅れて報告される、あるいは修正されることがあり集計値は暫定値であることに注意が必要である。この点を考慮して地域別の検出病原体数などの集計は、5週前の数字を用いて評価している。

急性呼吸器感染症定点は、内科定点に比べ小児科定点が多く選択されている。定点から報告されたインフルエンザ、COVID-19症例に占める各年齢群の割合については、小児に偏る可能性がある。一方、経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握、年齢群ごとの傾向と水準の評価の観点においては影響を与えない。

年末・年始(第52週～第1週頃)、ゴールデンウィーク(第18週頃)、お盆(第33週頃)、シルバーウィーク(第39週頃)等の週では、報告数が減少する傾向があり解釈には注意が必要である。なお、祝日、休日の並び等によって該当する週は年によって異なる。

従来の警報・注意報は保健所ごとの報告数を用いて検討・設計されており、定点数の設計および定点医療機関が変更された2025年4月7日以降の患者サーベイランスに直ちに当てはめることはできない。急性呼吸器感染症定点の運用時でのインフルエンザをはじめとする各感染症の警報・注意報といったアラートについてはデータの蓄積の上で検討を進める。なお、このような限界を理解したうえで従前の警報・注意報をコミュニケーションとして使用することを妨げるものではない。

急性呼吸器感染サーベイランスは2025年4月から開始されており、報告数のレベルの評価にはデータの蓄積を要する。その動向の推移を注視していく必要がある。

地域の定義

北海道・東北地方: 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方: 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県

北陸地方: 新潟県、富山県、石川県、福井県

東海地方: 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿地方: 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄地方: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

参考サイト

●感染症発生動向調査週報(IDWR)ページ

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/index.html>

●病原微生物検出情報(IASR)ページ

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/index.html>

●国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 感染症情報提供サイト

<https://id-info.jihs.go.jp/>

・インフルエンザ

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/influenza/index.html>

・新型コロナウイルス感染症

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/sa/covid-19/index.htm>

・RS ウイルス感染症

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/alphabet/rs/010/rs-intro.html>

・咽頭結膜熱

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/adeno/index.html>

・ヘルパンギーナ

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/herpangina/index.html>

●厚生労働省 感染症情報

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/index.html

・急性呼吸器感染症(ARI)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/ari.html>

・急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスに係る具体的な方針について (PDF: 1096KB)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001272561.pdf>

・インフルエンザ(総合ページ)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

・新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

・RS ウイルス感染症 Q&A(令和6年5月 31 日改訂)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

・咽頭結膜熱

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/pcf.html

・ヘルパンギーナ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/herpangina.html

●新型コロナウイルスのゲノムサーベイランス(検疫検体:入国者検疫検体を含む)について

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/45/532/article/030/index.html>

●SARS-CoV-2 変異株について

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/sa/covid-19/180/flu2-1-1.html>

●都道府県番号について (PDF: 68KB)

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2007/07/dl/tp0727-1d.pdf>

参考 1: 検体採取週ごとの全自動遺伝子解析装置等による検査結果

全自動遺伝子解析装置を設置している医療機関における病原体検査の結果をモニタリングするために、任意の医療機関の協力により集められた検査結果である。

病原体	第 48 週	第 49 週	第 50 週	第 51 週	第 52 週	第 1 週
インフルエンザウイルス A/H1	0	0	0	1	0	0
インフルエンザウイルス A/H1-2009	0	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルス A/H3	0	3	2	2	0	0
インフルエンザウイルス A(亜型不明)	10	12	9	2	2	0
インフルエンザウイルス B	0	2	1	2	0	0
SARS-CoV-2	4	2	1	3	1	0
RS ウィルス	3	1	2	1	1	0
パラインフルエンザウイルス 1	0	1	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス 2	1	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス 3	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス 4	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス(型不明)	0	1	1	0	0	0
ヒトライノウイルス／エンテロウイルス	7	6	6	3	2	0
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	2	1	1	0
コロナウイルス HKU1	0	0	0	0	0	0
コロナウイルス NL63	0	1	0	1	0	0
コロナウイルス 229E	0	0	0	0	0	0
コロナウイルス OC43	0	0	0	0	0	0
百日咳菌	0	0	0	0	0	0
パラ百日咳菌	0	0	0	0	0	0
クラミジア・ニューモニク	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ・ニューモニク	0	2	1	1	0	0

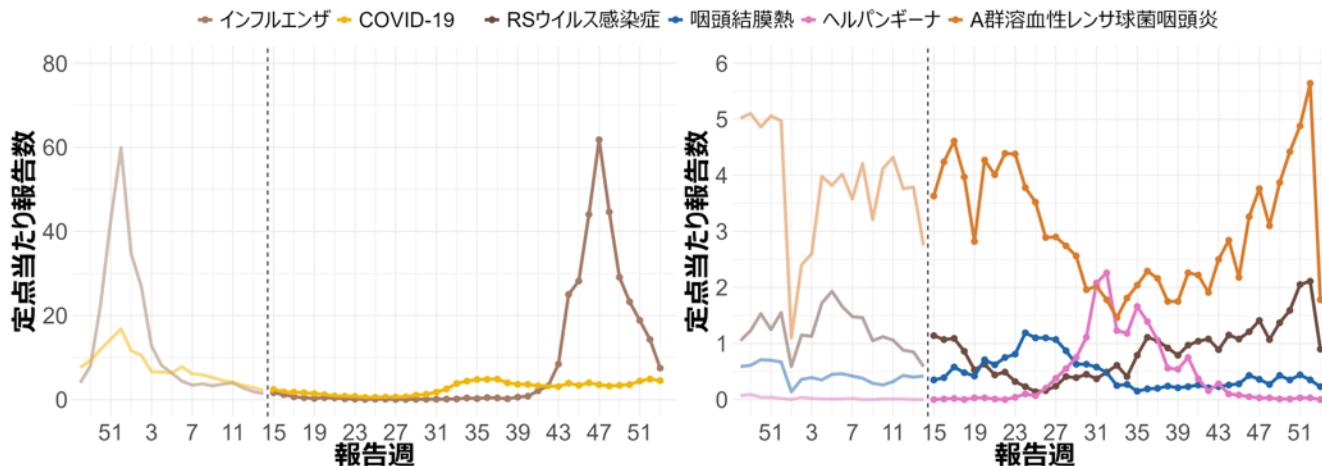
出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 7 日時点, データ範囲: 2025 年 11 月 24 日～2026 年 1 月 4 日)

注)医療機関からの任意の協力による報告であるため報告数は参考値である。第48週から第1週にかけてご協力いただいた医療機関は、26医療機関である。

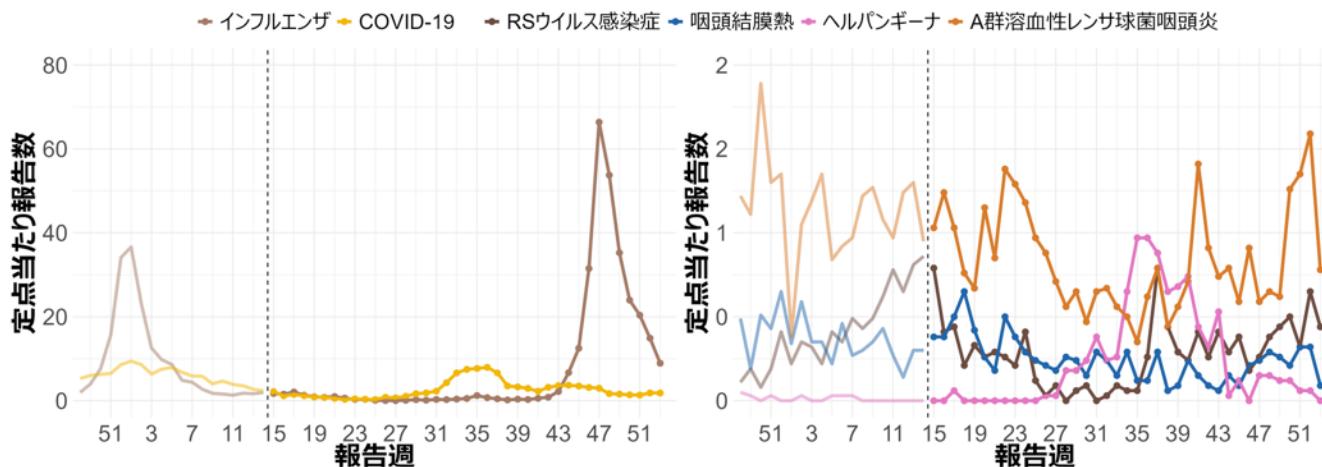
注)ライノ／エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。

参考2: 各感染症の週ごとの都道府県別定点当たり報告数

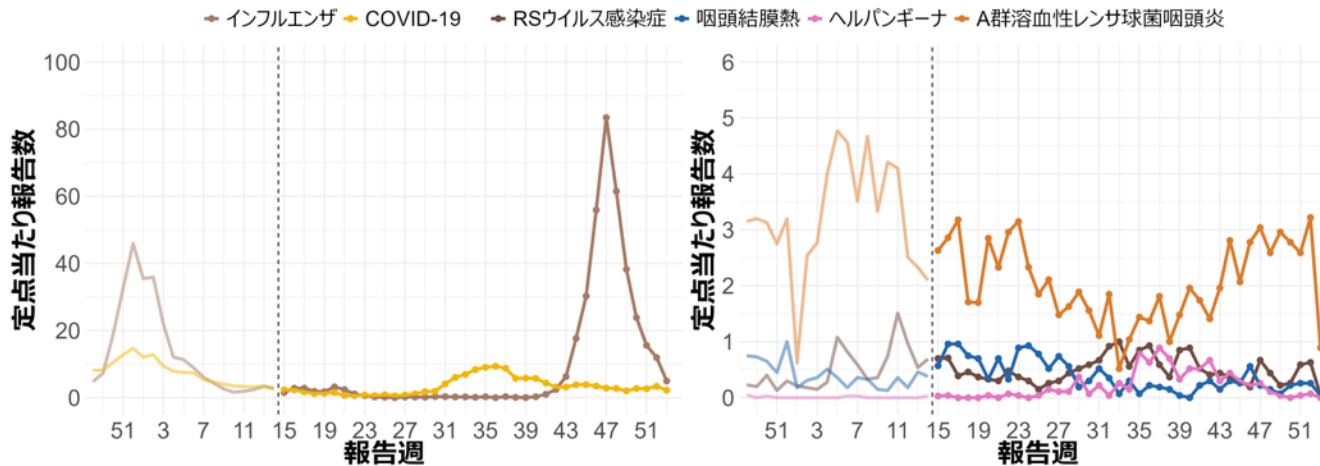
北海道



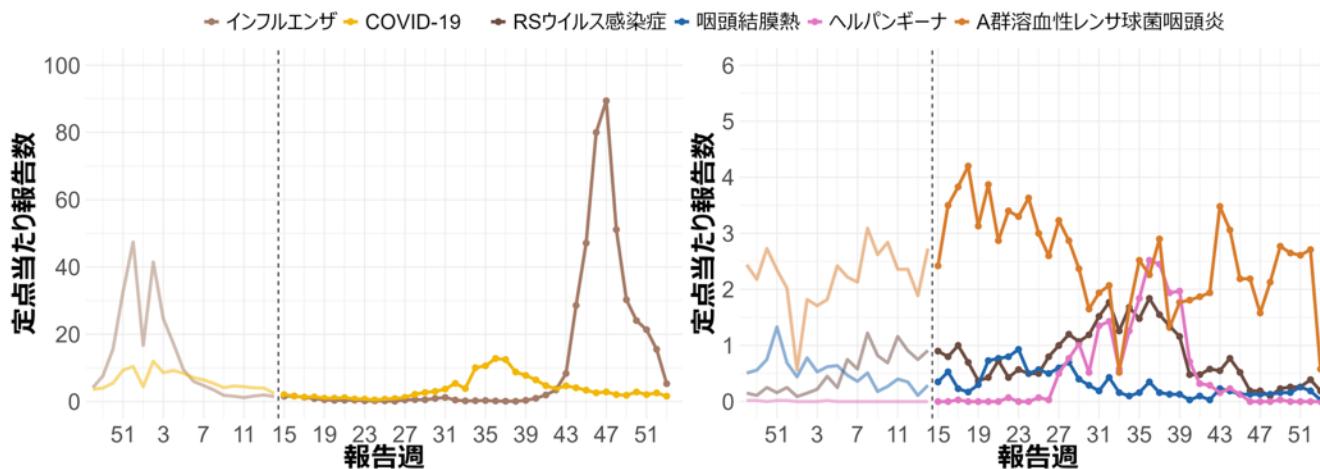
青森県



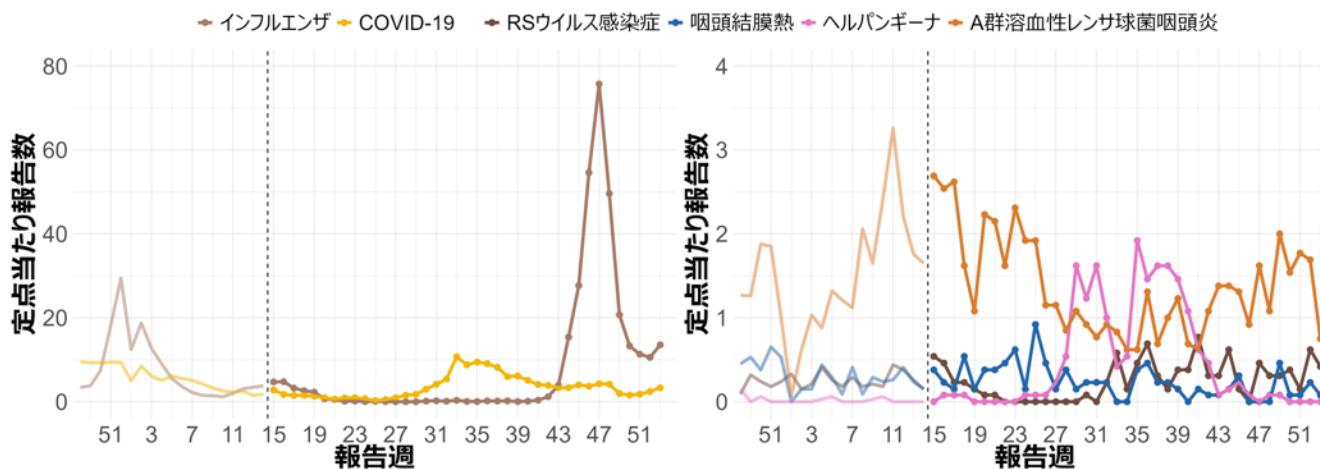
岩手県



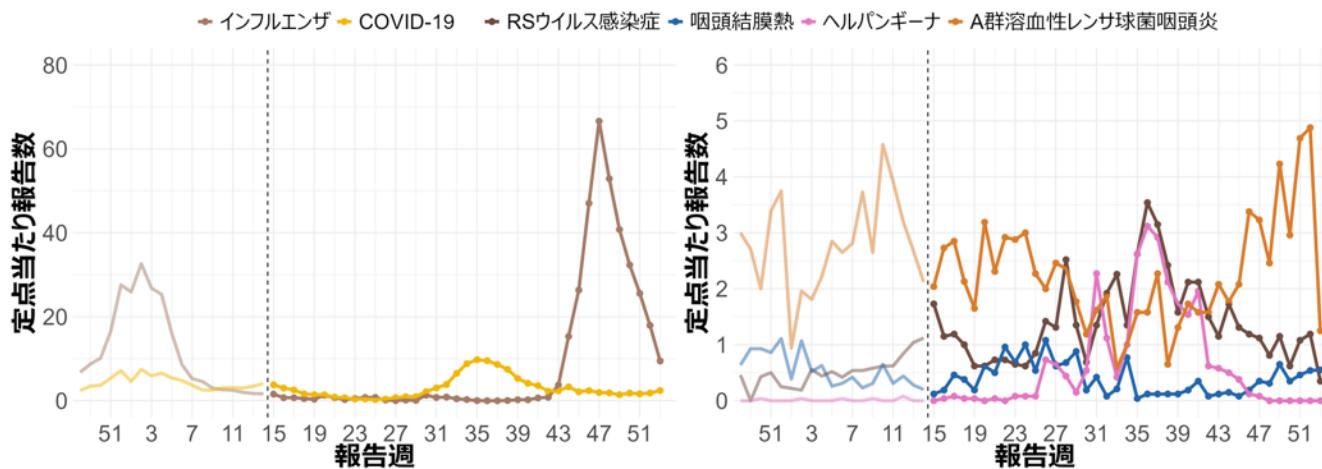
宮城県



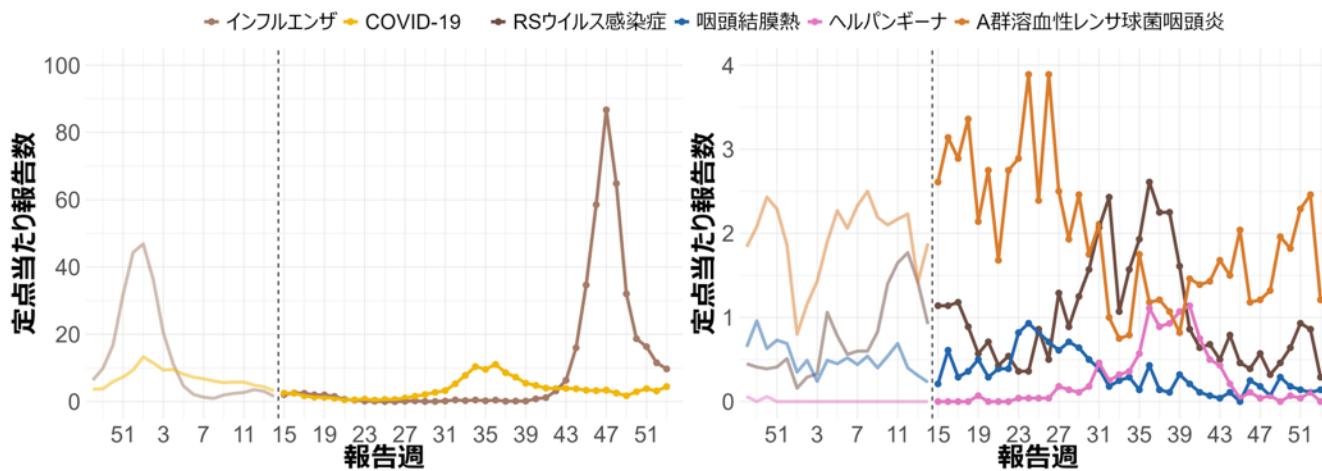
秋田県



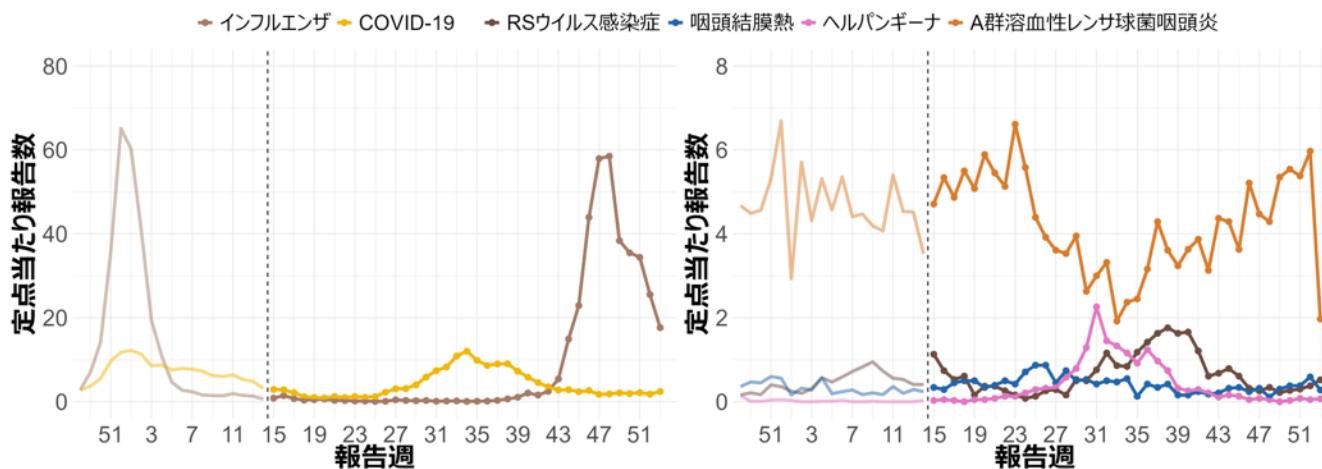
山形県



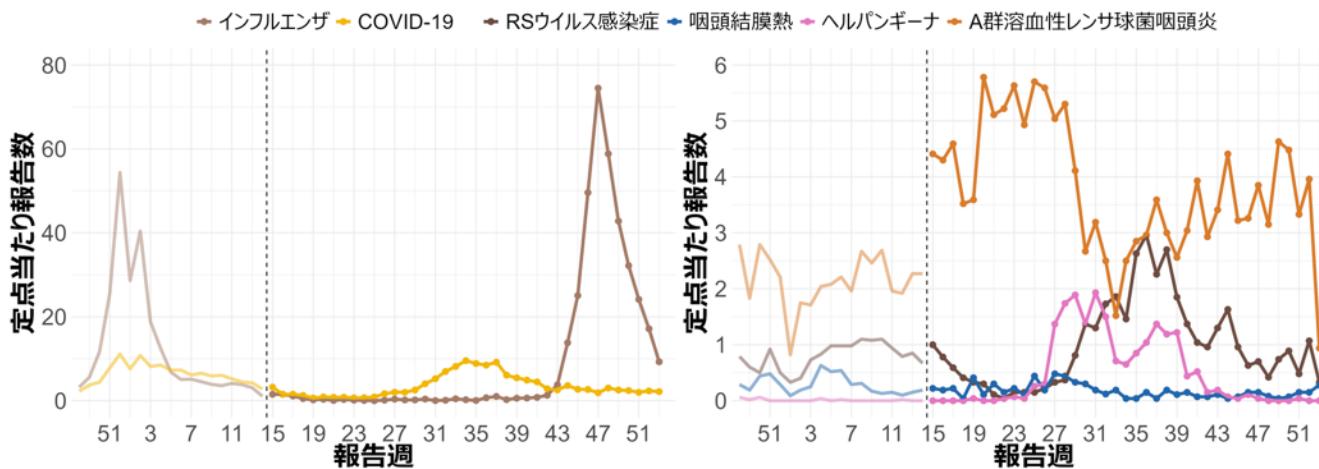
福島県



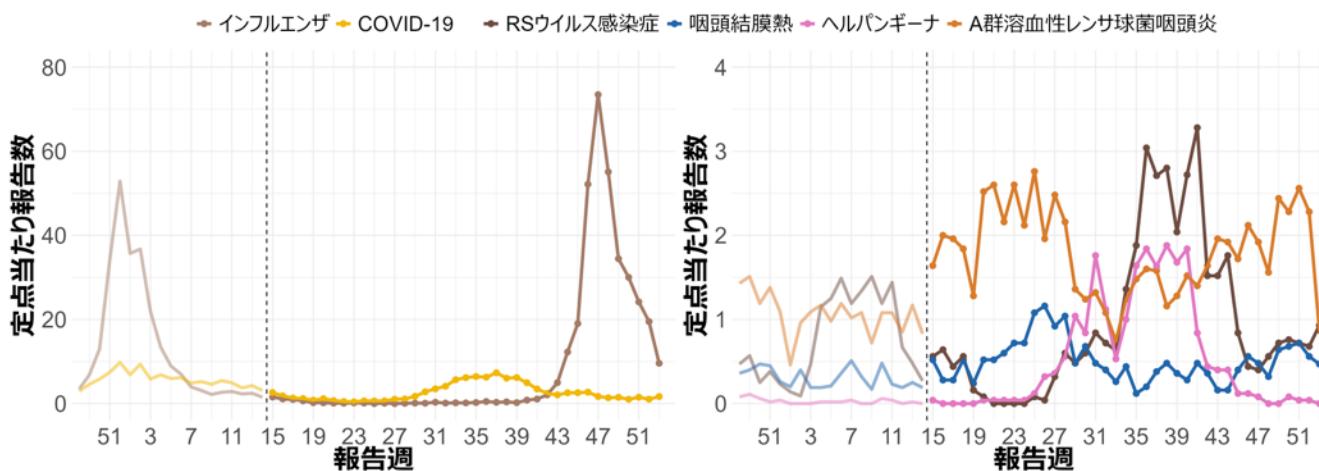
茨城県



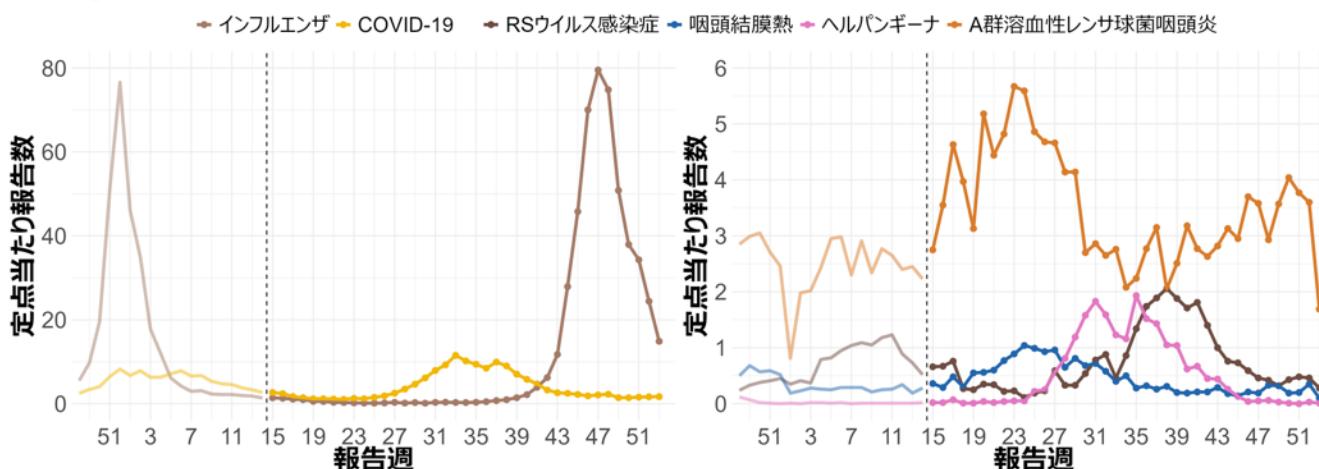
栃木県



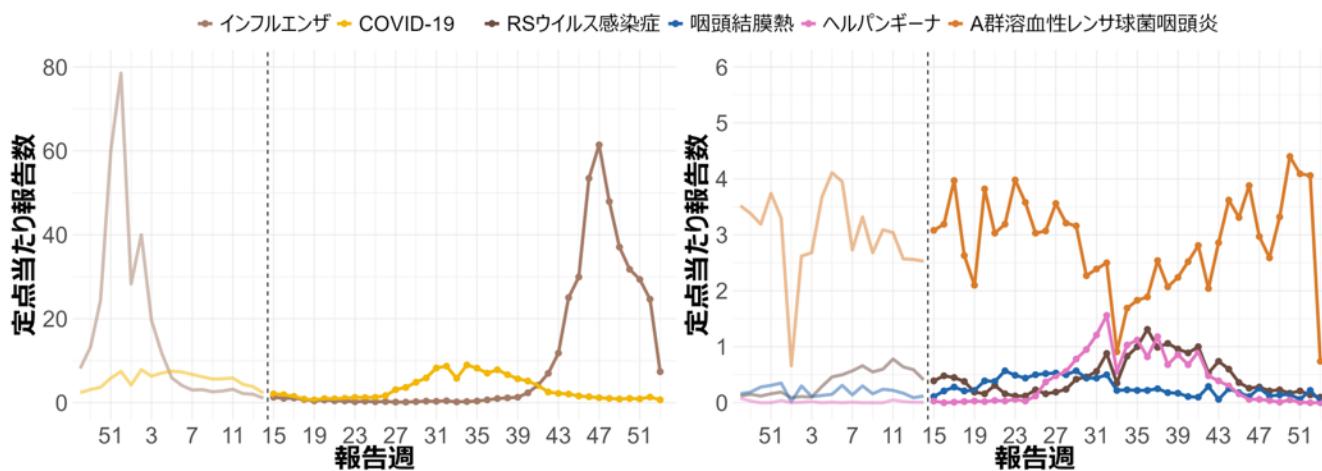
群馬県



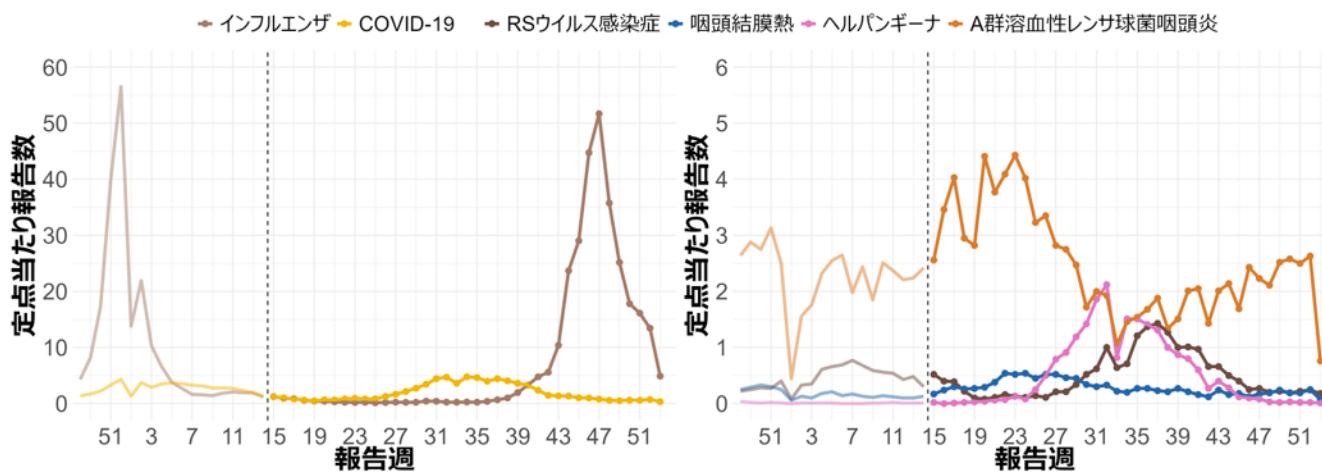
埼玉県



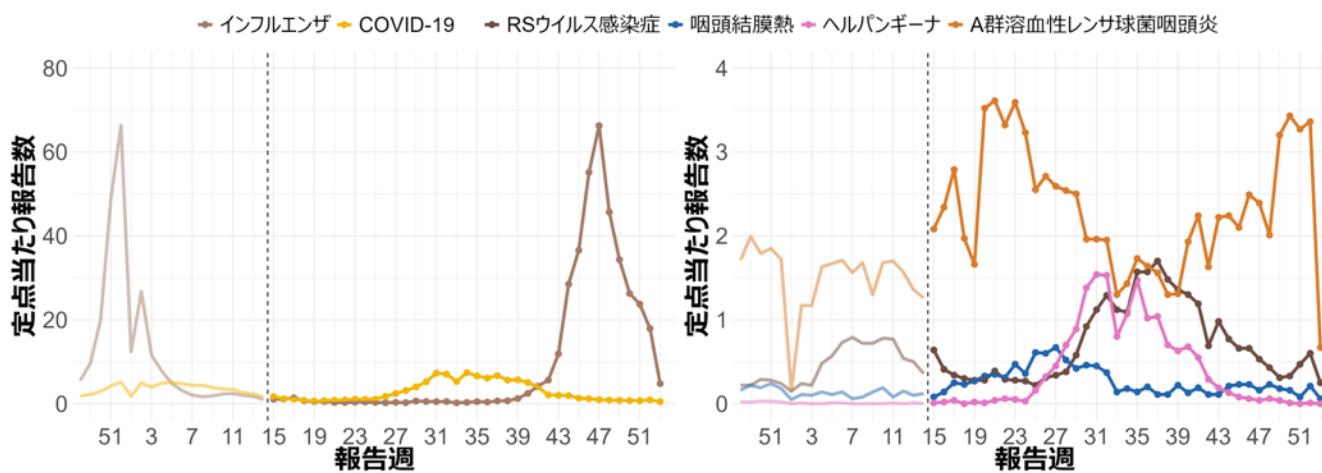
千葉県



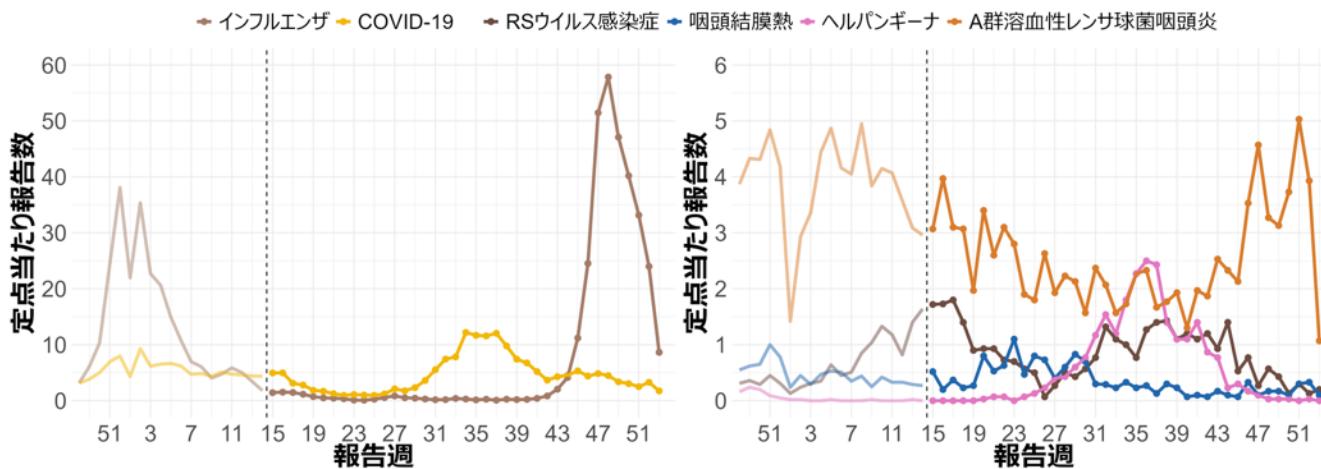
東京都



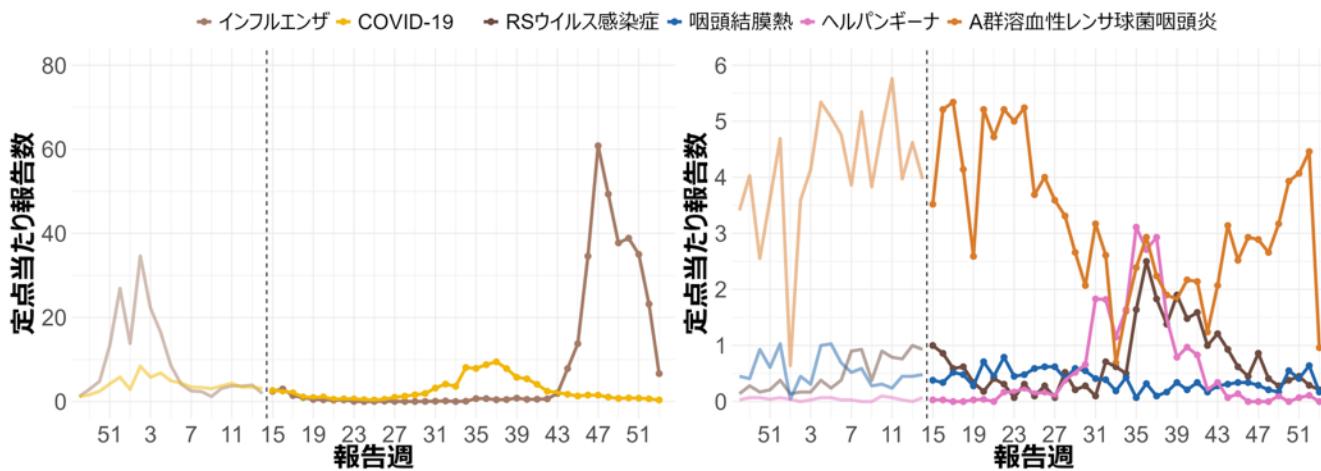
神奈川県



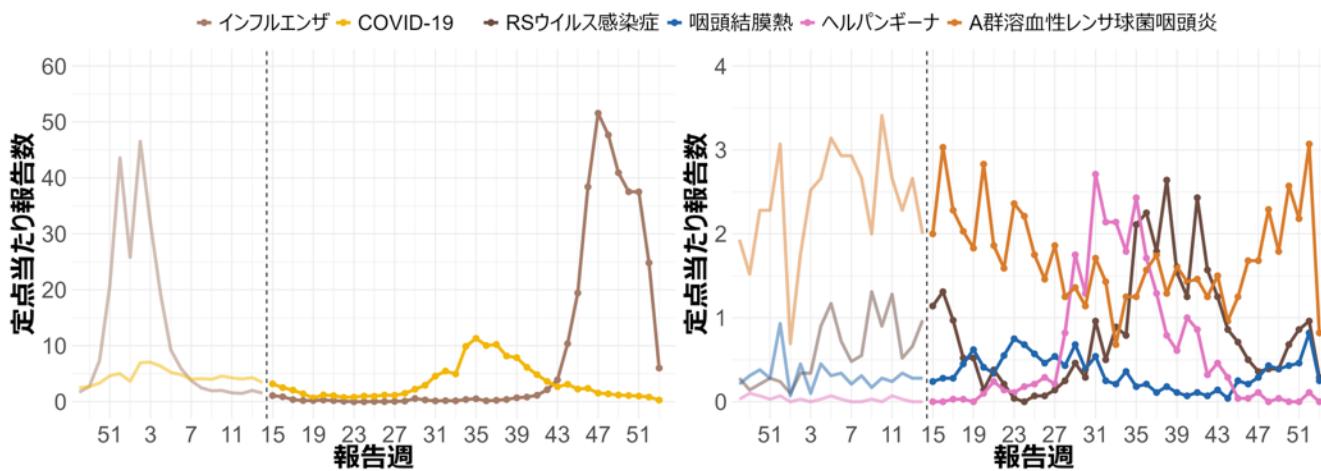
新潟県



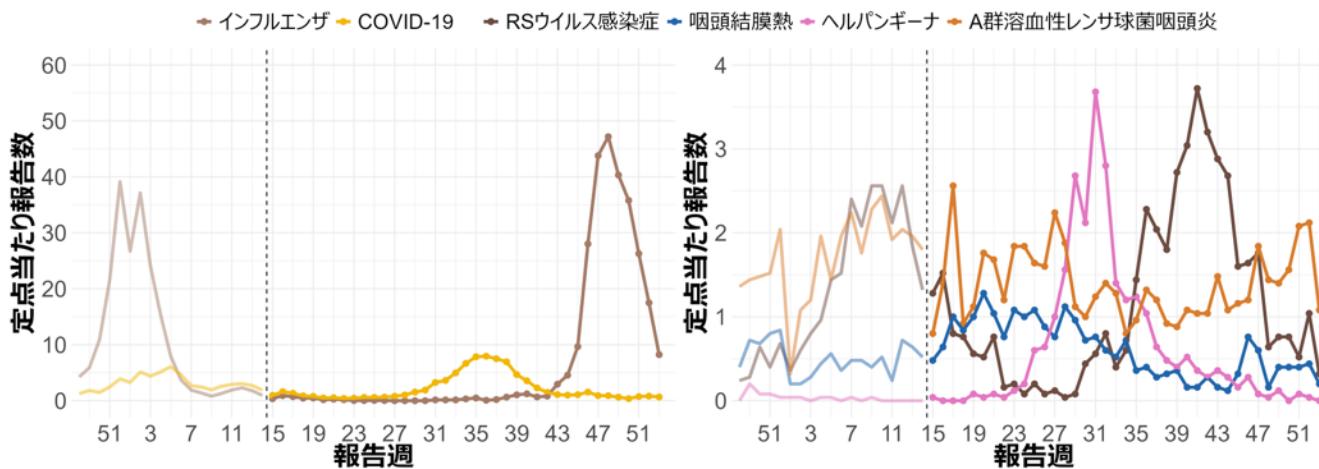
富山県



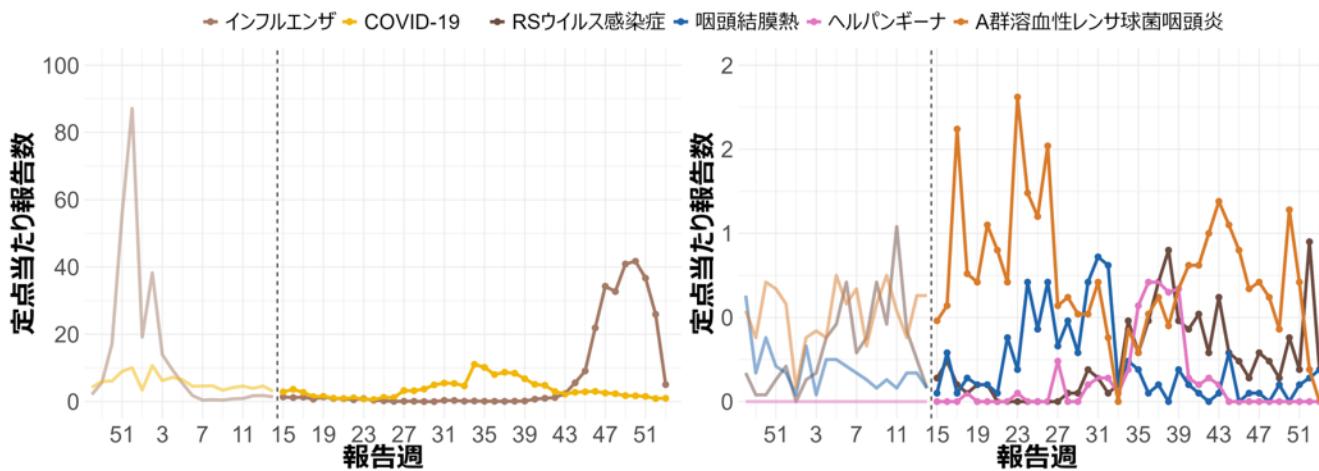
石川県



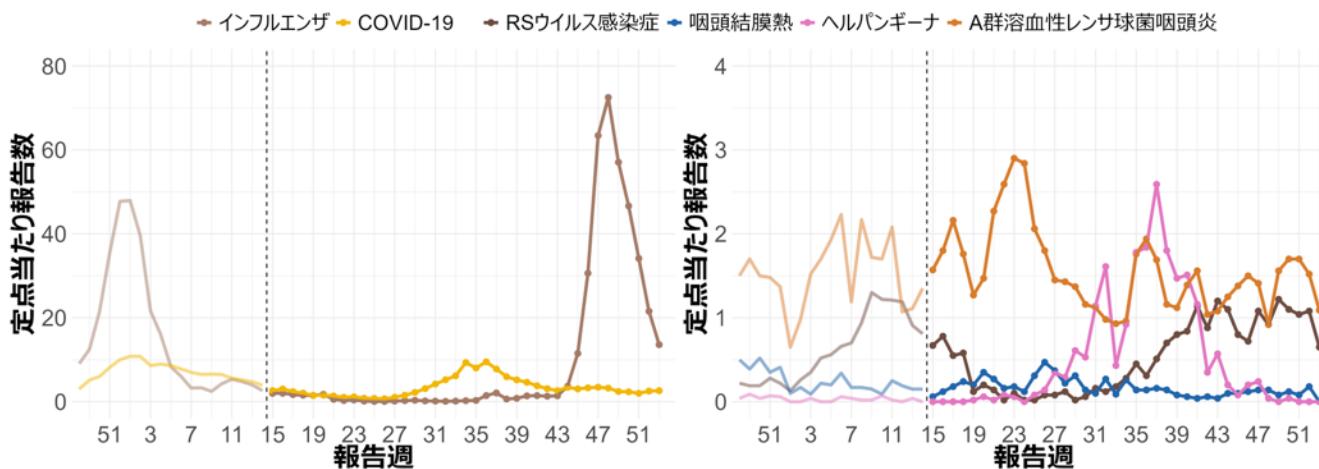
福井県



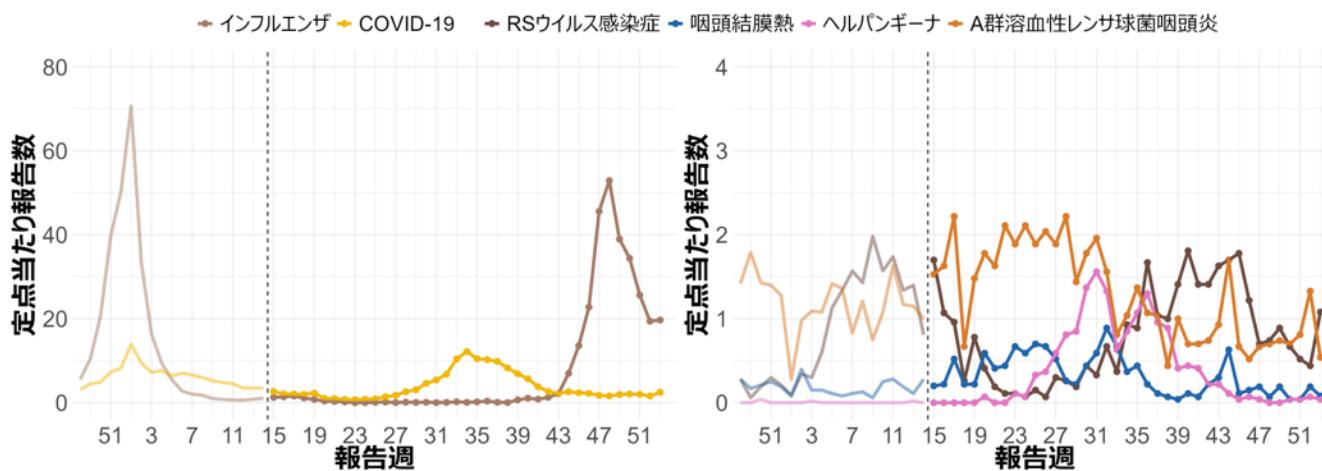
山梨県



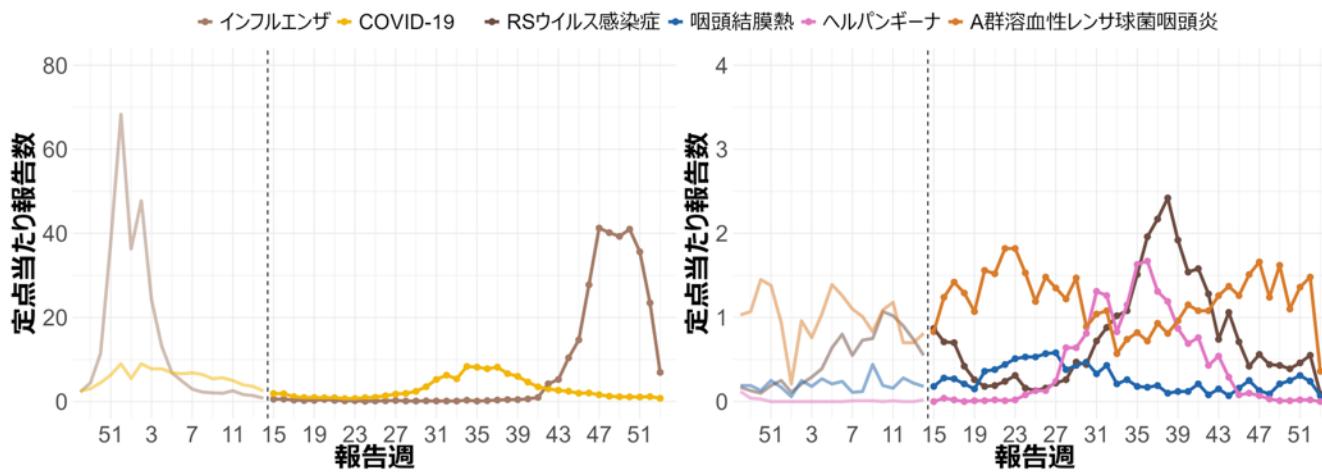
長野県



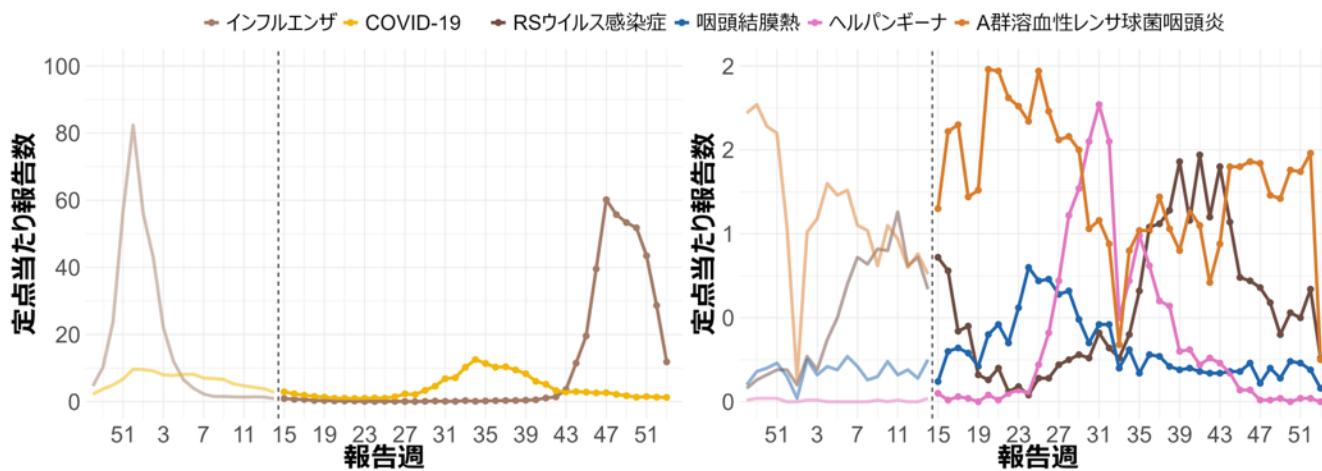
岐阜県



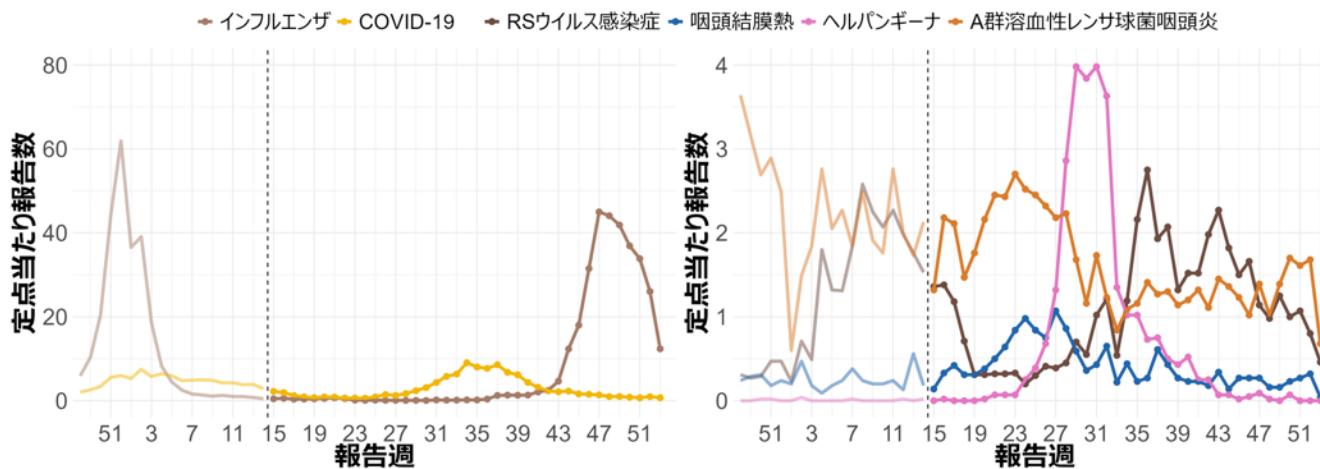
静岡県



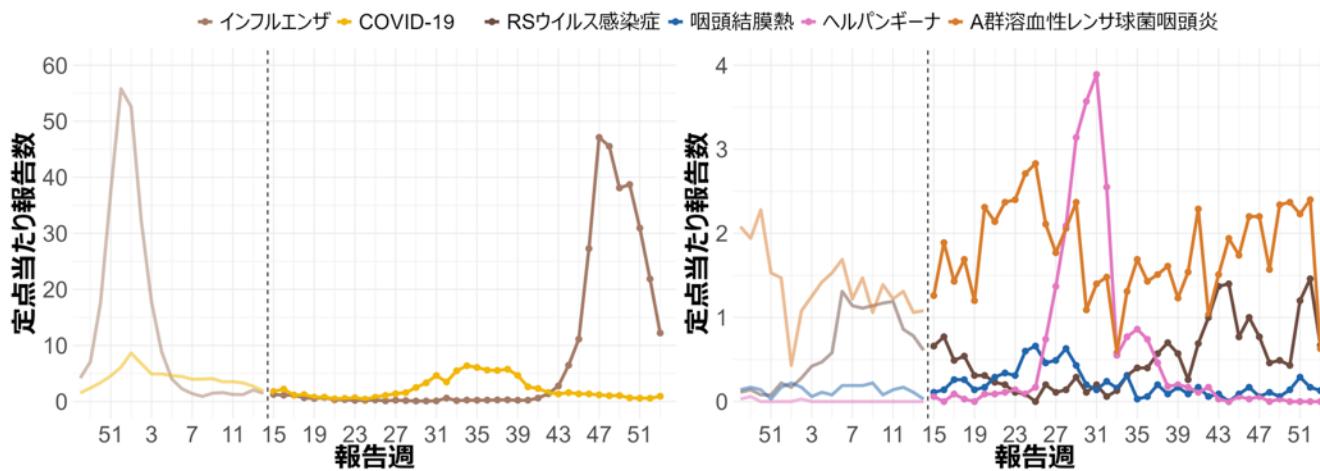
愛知県



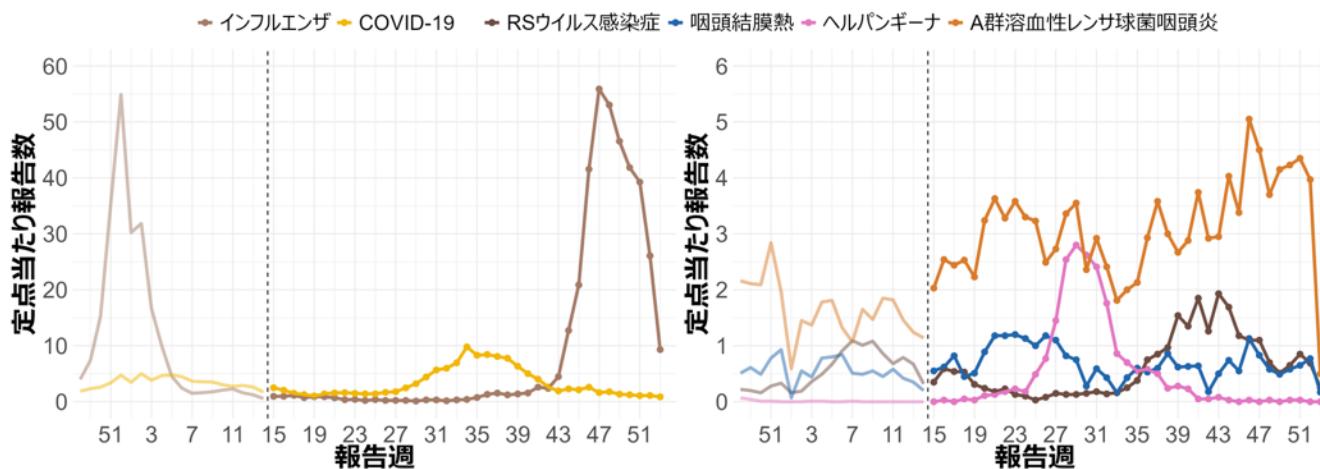
三重県



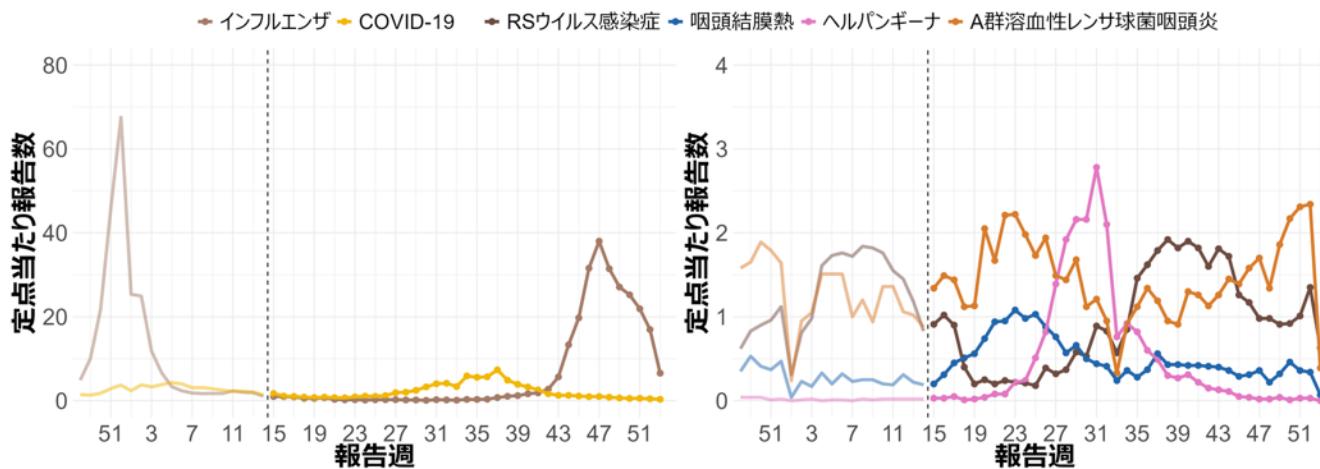
滋賀県



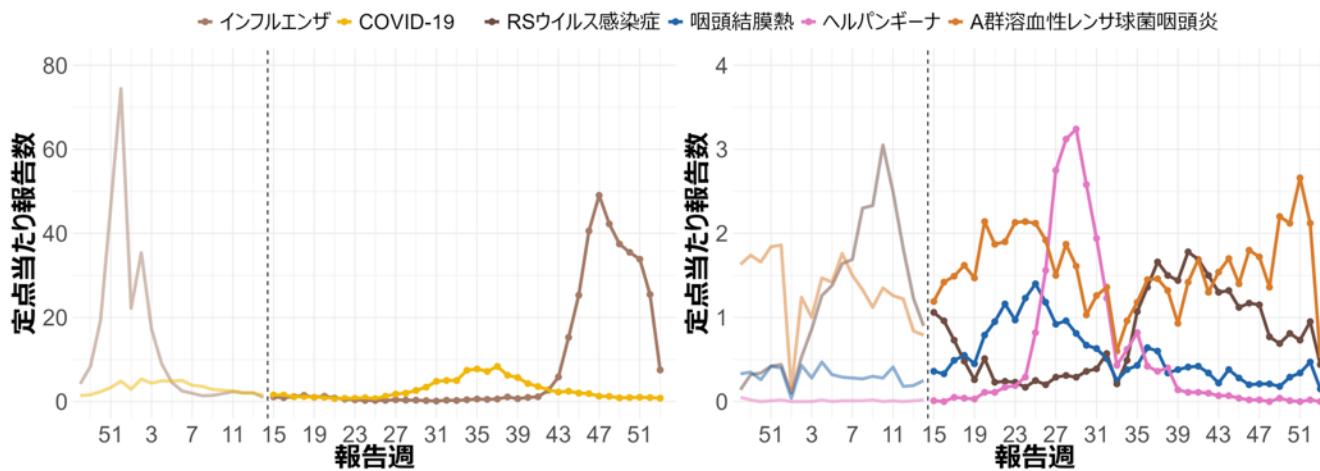
京都府



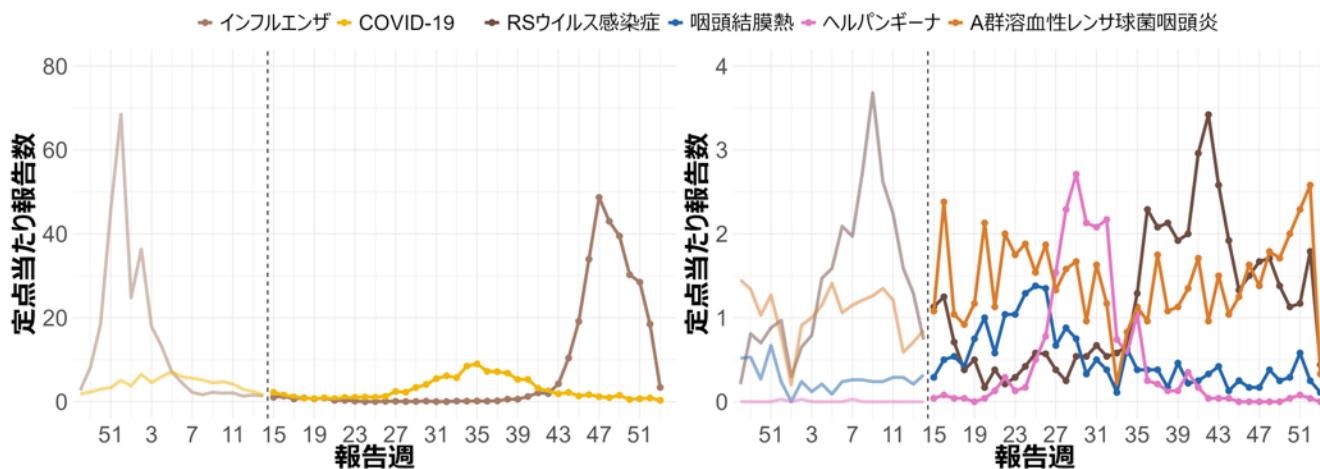
大阪府



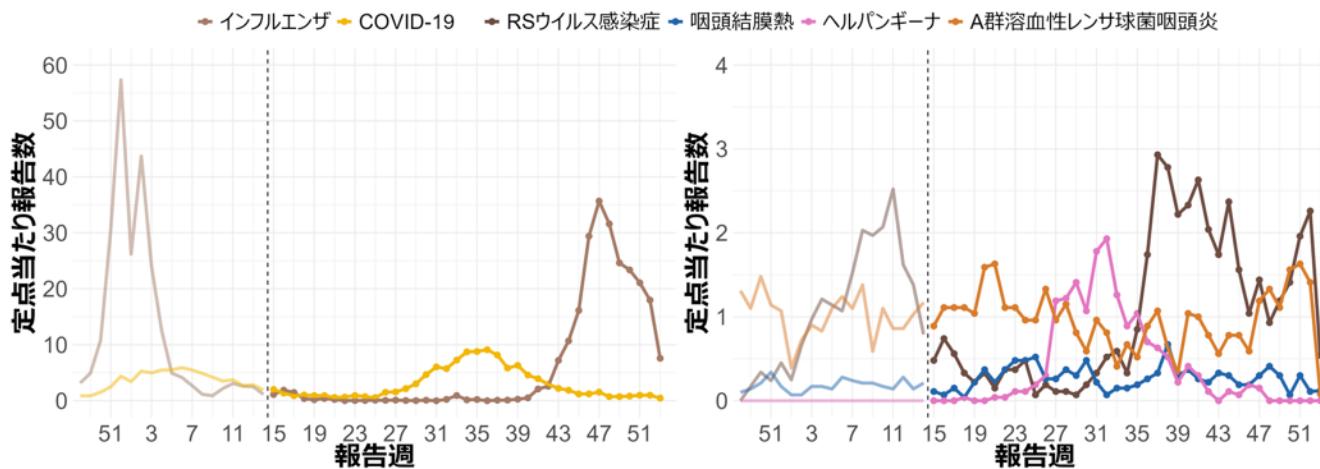
兵庫県



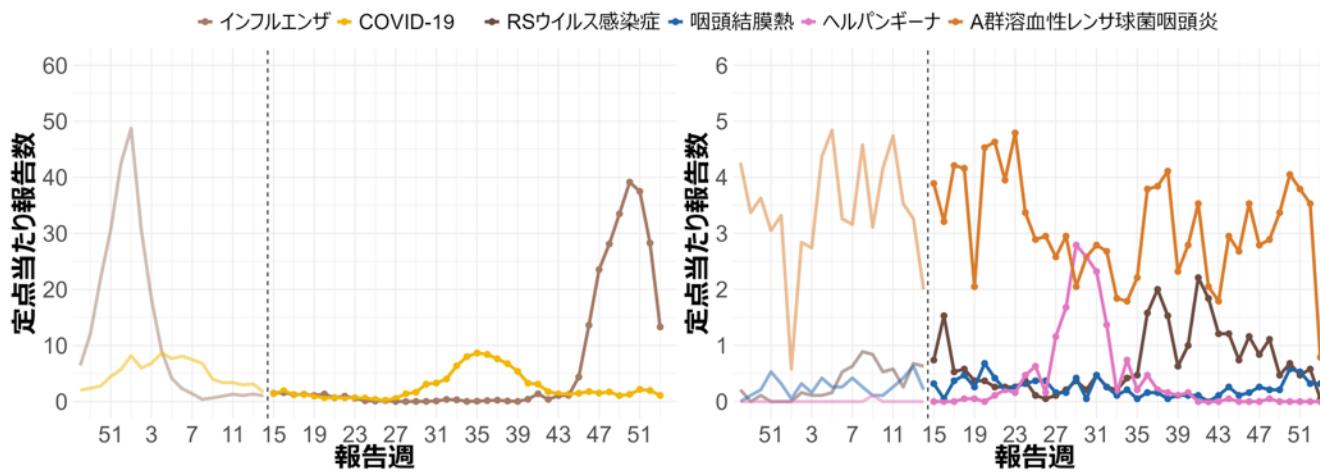
奈良県



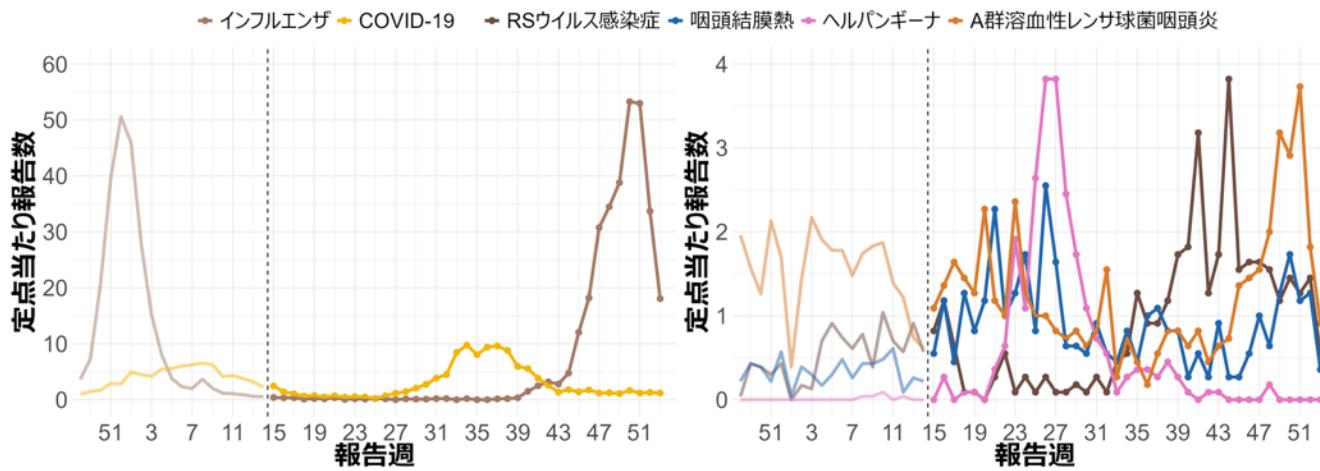
和歌山県



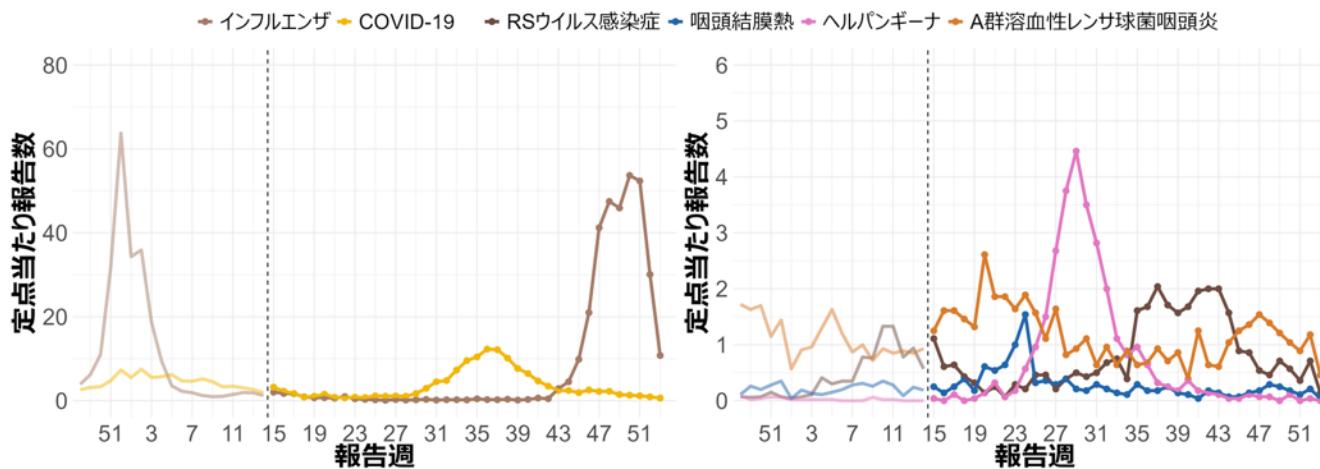
鳥取県



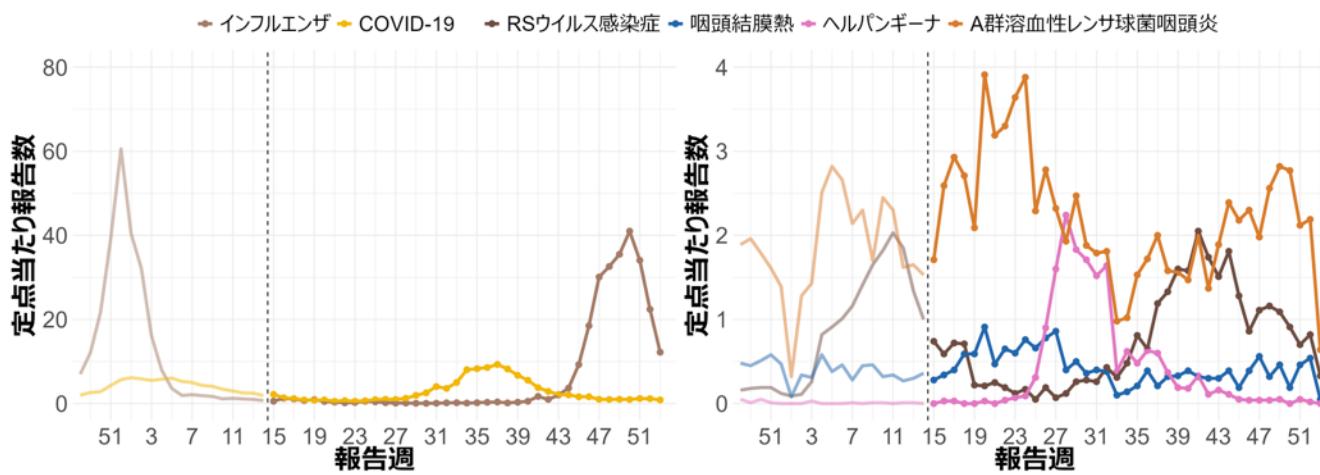
島根県



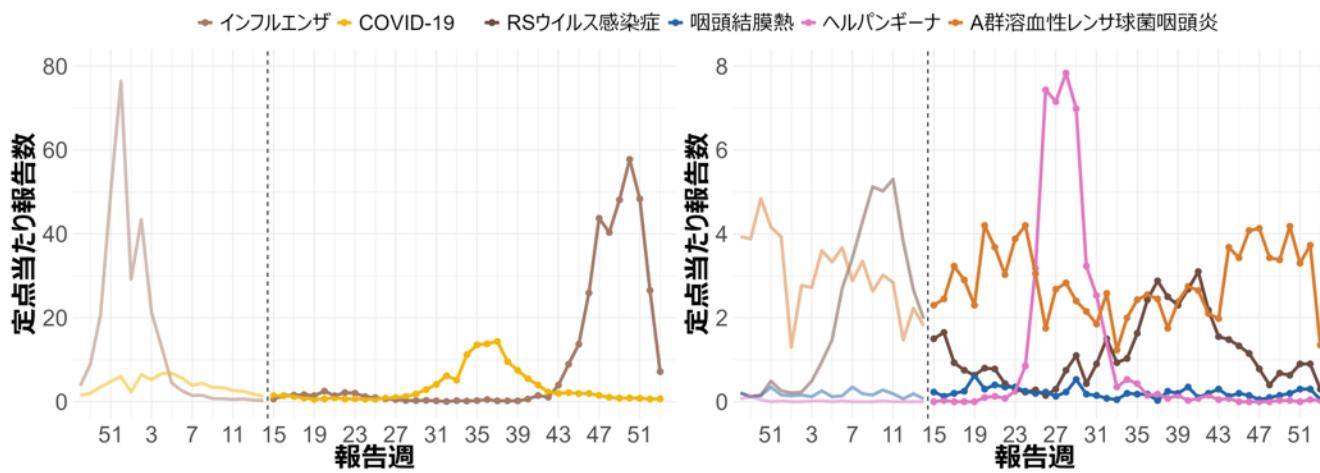
岡山県



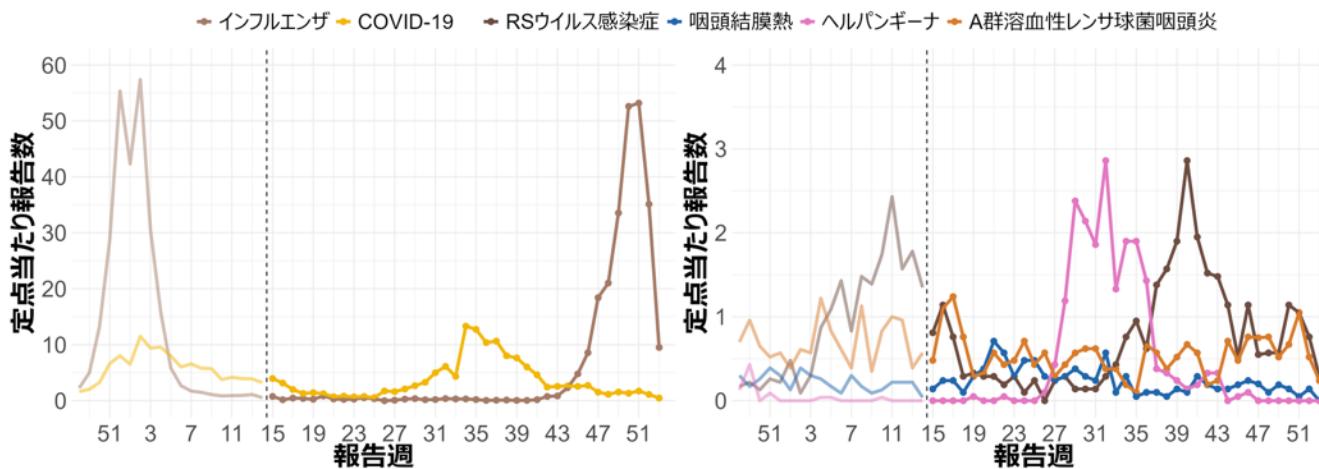
広島県



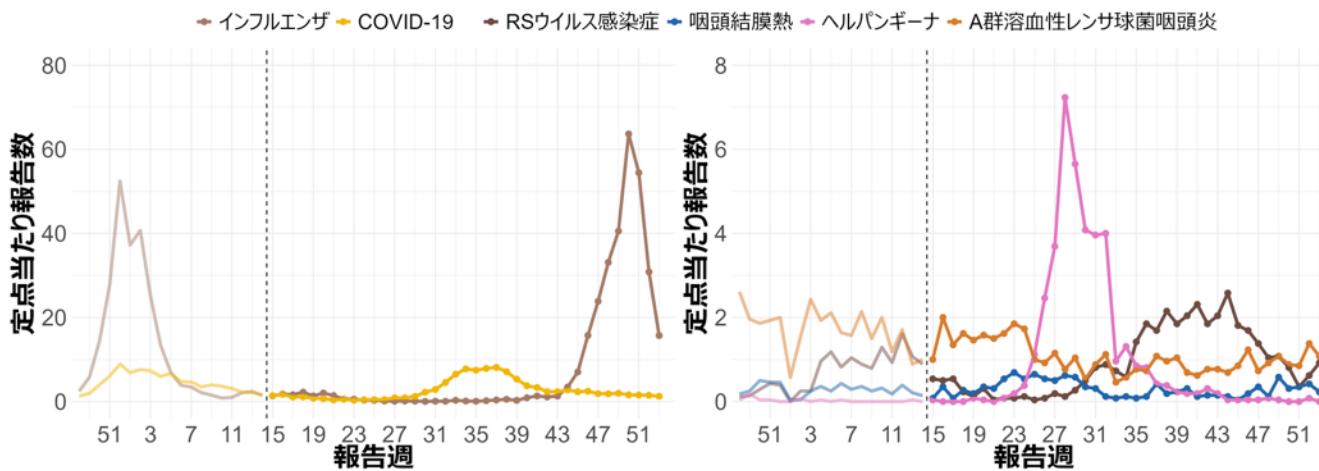
山口県



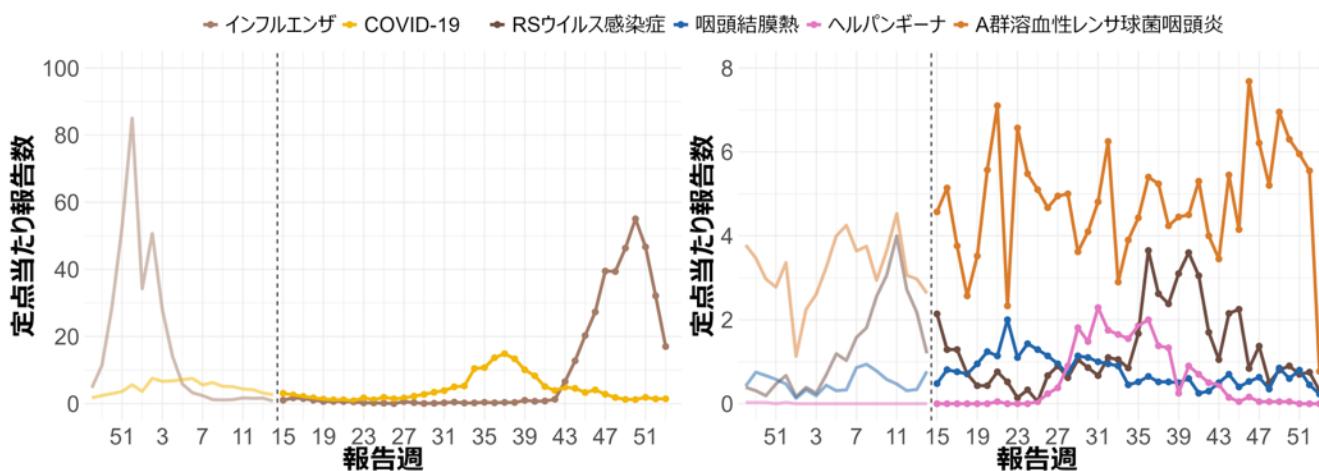
徳島県



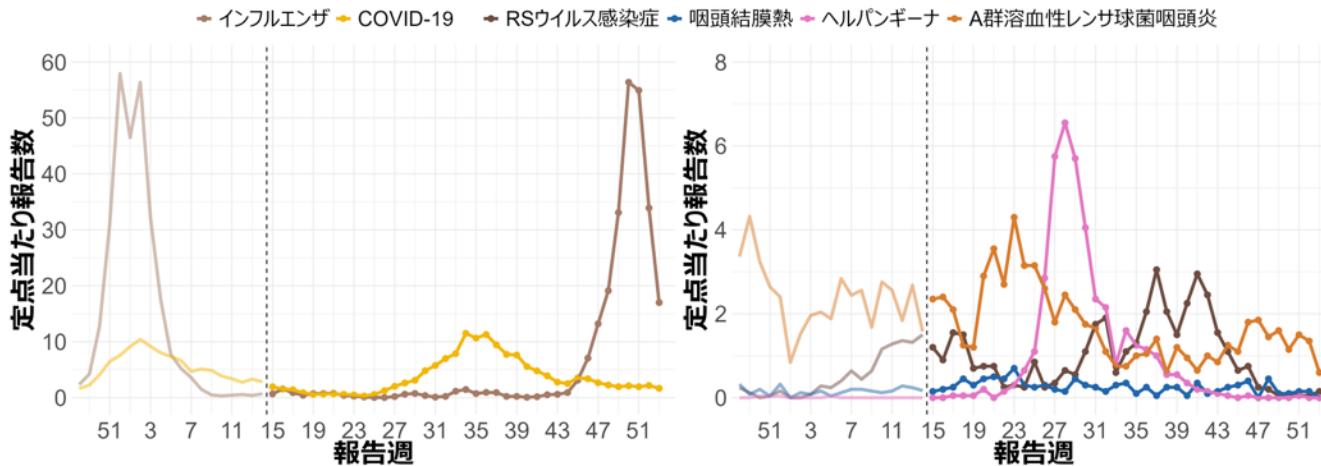
香川県



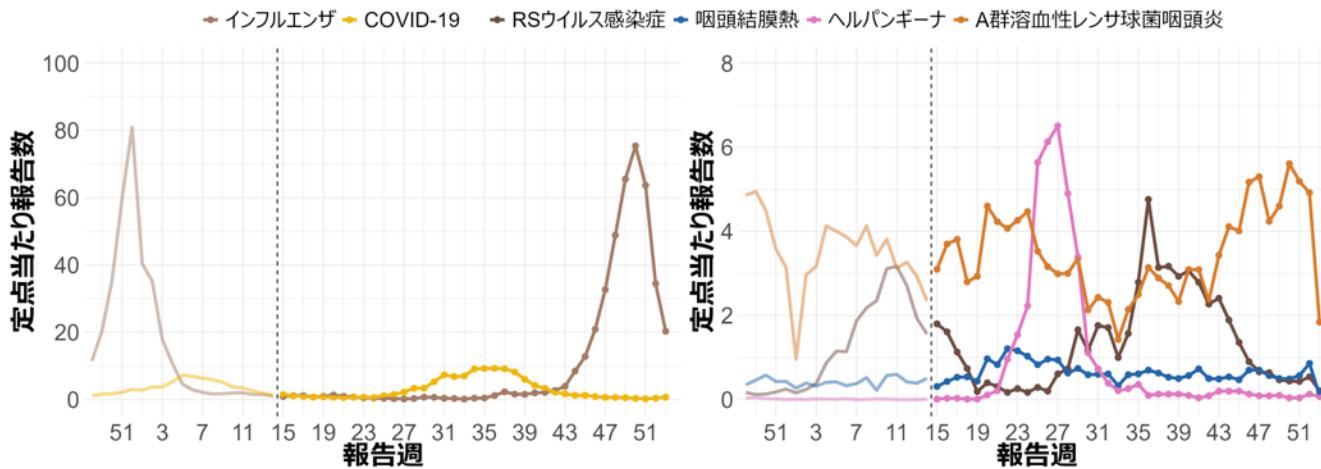
愛媛県



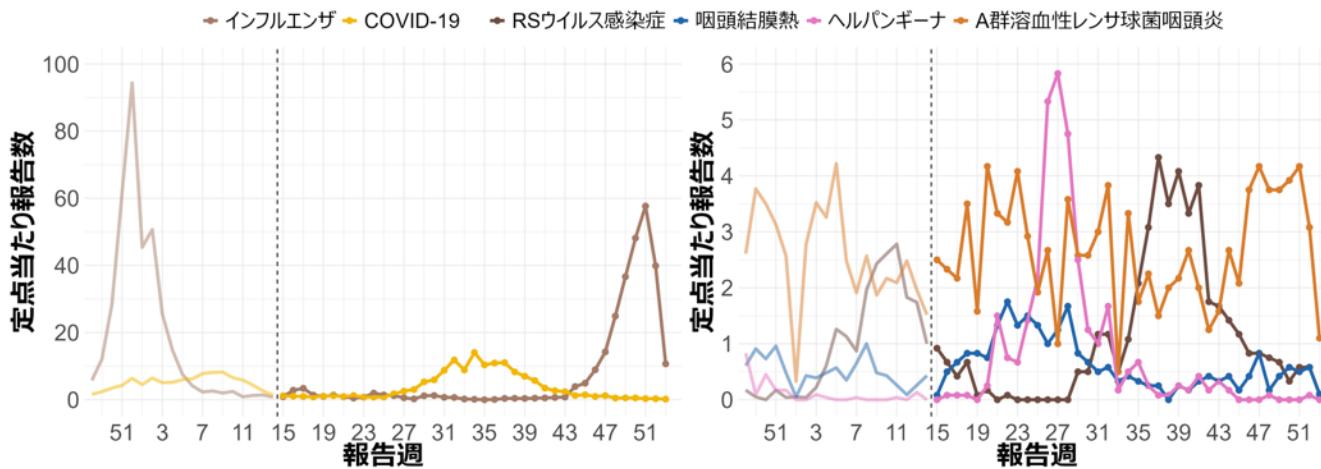
高知県



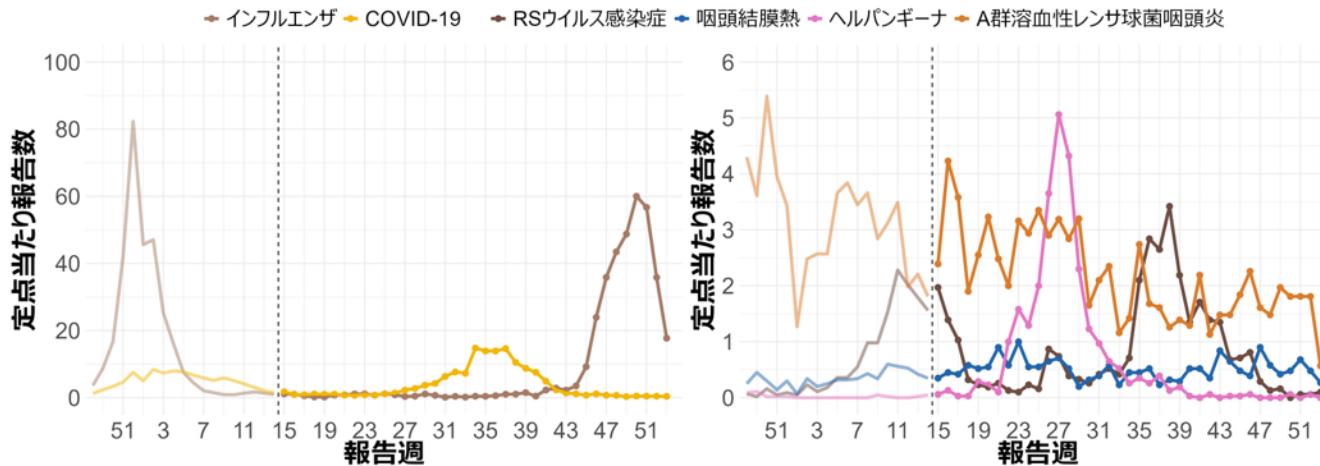
福岡県



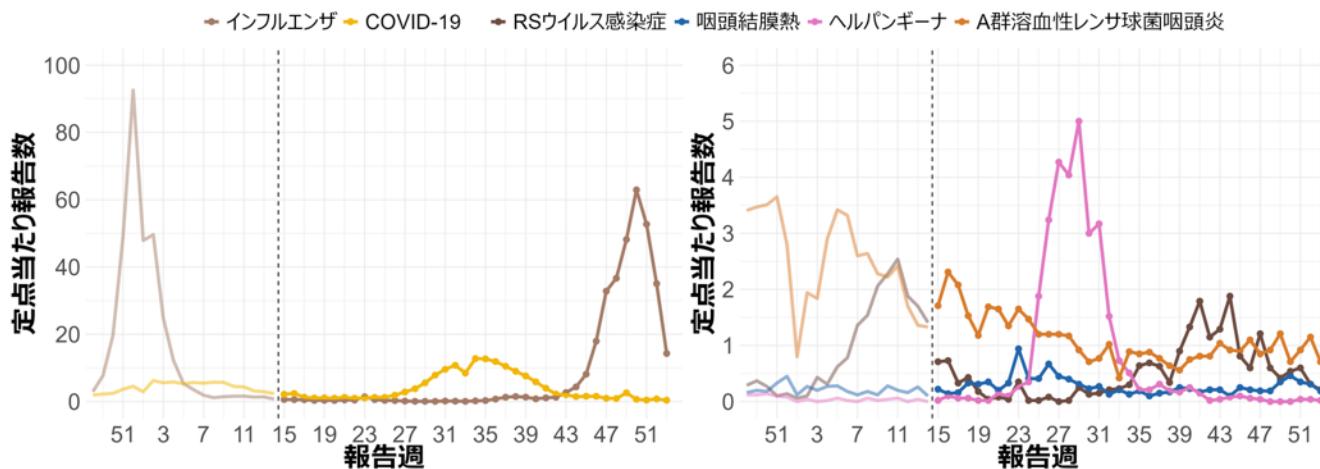
佐賀県



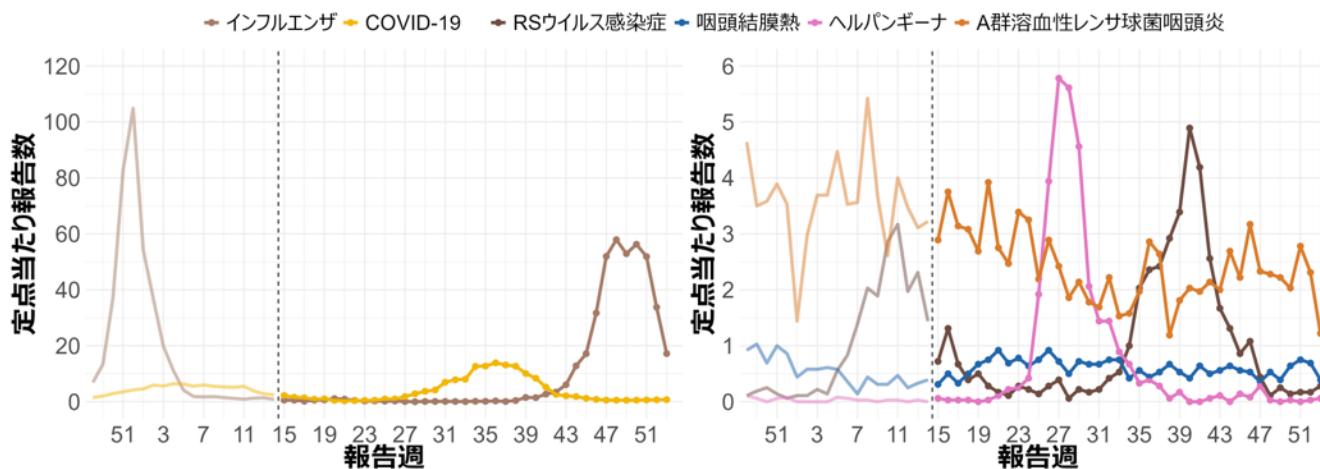
長崎県



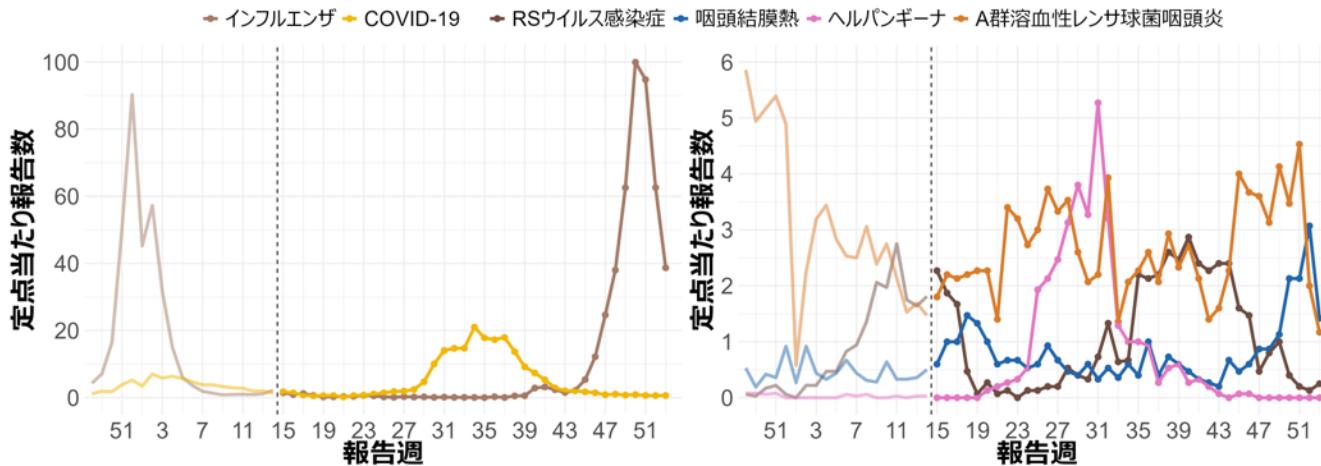
熊本県



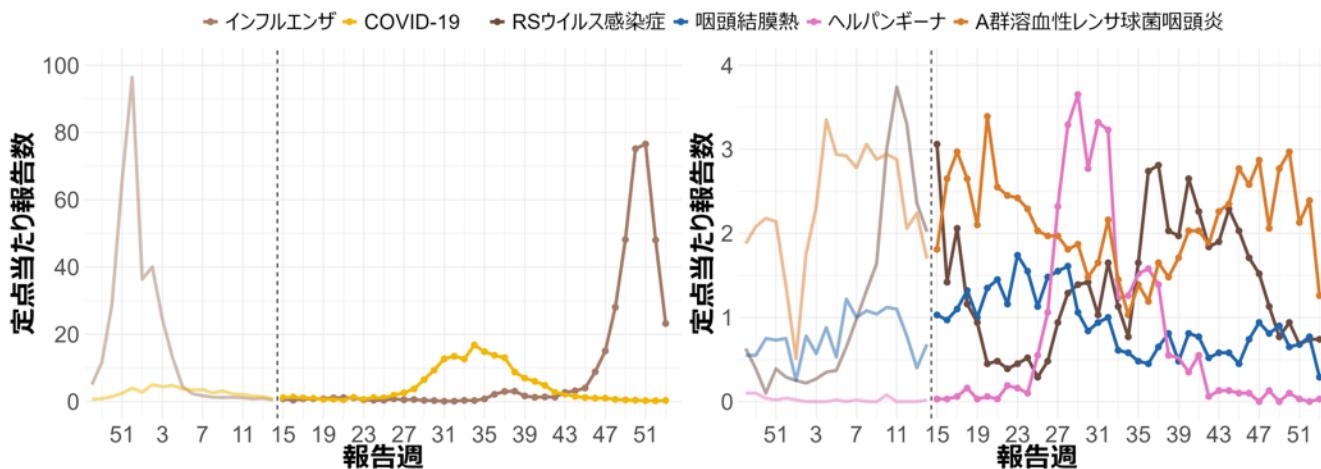
大分県



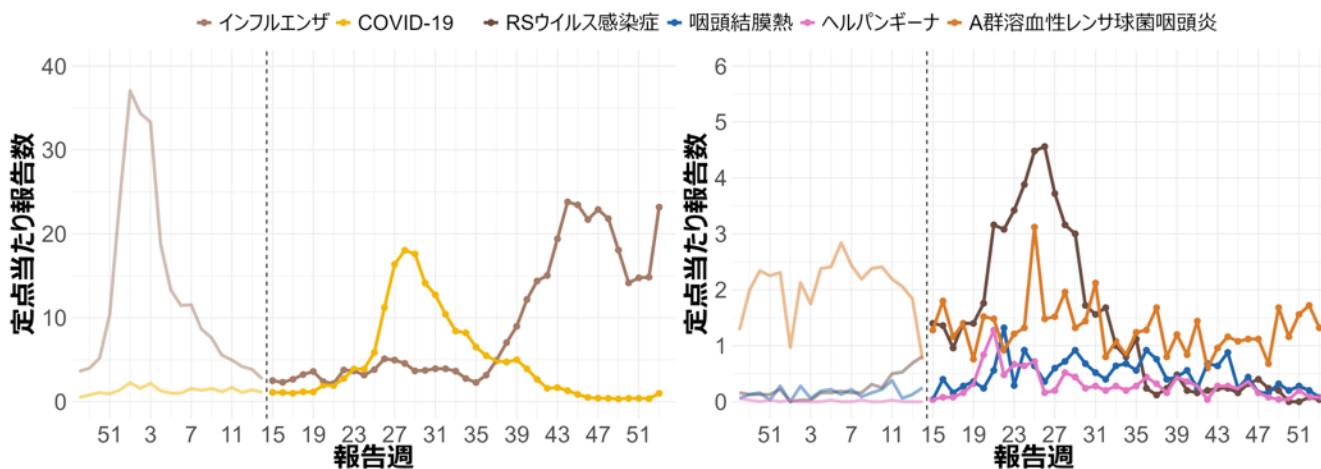
宮崎県



鹿児島県



沖縄県



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点, データ範囲: 2024年11月25日~2026年1月4日)

注)報告数は、当該週のIDWRで還元したデータの再掲である。

注)定点数の変更をうけて、2025年第14週および第15週の間に点線を入れ、濃淡で区別している。

注)2025年4月7日(第15週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19定点(約5,000医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約3,000医療機関)に変更、小児科定点は約3,000医療機関から約2,000医療機関に変更された。

参考3A: 2025年11月における病原体の報告数

	報告数
検出病原体あり	2,394
検出病原体なし	937

参考3B: 2025年11月における病原体別の検査数、陽性数および陽性率

病原体	検査数	陽性数	陽性率
インフルエンザウイルスA	3,295	1,356	41.2%
インフルエンザウイルスB	3,295	19	0.6%
SARS-CoV-2	3,331	179	5.4%
RSウイルス	3,331	194	5.8%
パラインフルエンザウイルス	3,331	138	4.1%
ヒトメタニユーモウイルス	3,331	20	0.6%
ライノ／エンテロウイルス	3,331	669	20.1%
アデノウイルス	3,285	121	3.7%

出典: 感染症発生動向調査(2026年1月7日時点、データ範囲: 2025年11月1日～2025年11月30日)

注)病原体の報告数は、検出病原体の有無を集計している。

注)各病原体の検査数は、陽性・陰性および未実施のうち、未実施を除いた陽性・陰性を集計している。

注)報告月ではなく検体採取月で集計していることに注意が必要である。

注)集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

注)1つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上している。

注)ライノ／エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。